

YAMAHA ELECTONE®

**ME-55
ME-35
ME-15**

取扱説明書

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきましてありがとうございます。

エレクトーンME-55/ME-35/ME-15は、永年にわたる楽器づくりの経験をもとに、先進の電子テクノロジーを結集して完成させた最新型のエレクトーンです。とくに、ヤマハ独自のデジタル技術を大幅に導入し、これまでになく自然で生き生きとした音色を実現しました。その美しい響きとゆたかな表現力は、どなたにもご満足いただけるものと思います。また、多彩な音楽表現を可能にする数々の機能を採り入れていますので、お子さまから中・高校生、さらには成人の方まで、幅広くお楽しみいただけます。

演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみいただくため、あらかじめこの説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは大切に保管し、わからないことが生じた時にご活用ください。

(主な特長)

●デジタル音源技術による生き生きとした音色。

ヤマハならではのFM音源方式を、すべての音色に採用。生き生きとしたゆたかな響きを実現しました。また、実際の打楽器音をデジタル録音したAWM音源方式によって、とてもリアルなリズム音が得られます。

●幅広い表現力とすぐれた演奏性。

パネルの音色のほかに、自由に音色を移すことができるボイスメニューを備え、サウンドバリエーションはいちだんと充実。さらに、レジストレーションメモリーには音色やリズムのセットを記憶させることができ、すぐれた演奏性を発揮します。

●レッスンに最適な基本レジストレーション。

パネルの音色とはべつに、5種類の基本的なレジストレーションを用意。レッスンに最適な音色を、ボタンひとつで呼び出すことができます。

●多彩な音楽表現を可能にする数多くの機能。

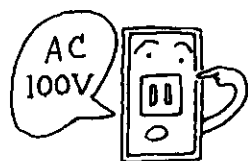
コンパクトなボディに、アルペジオコード、リズムック、オートリズム、オートベースコード、コードシーケンスプログラマー(ME-55/ME-35のみ)など、楽しくやさしい機能を凝縮。音楽の好みや経験に応じて、どなたでも手軽に演奏をお楽しみいただけます。

●楽しさを広げる先進機能も装備。

エレクトーンに記憶させた情報は、オプションのRAMパックにメモリーすることが可能。また、演奏情報などの発信ができるMIDI端子も装備しています。

(ご使用にあたっては次のことにご注意ください)

必ず、AC100Vのコンセントから電源を。



大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。

電源プラグの扱いに注意。



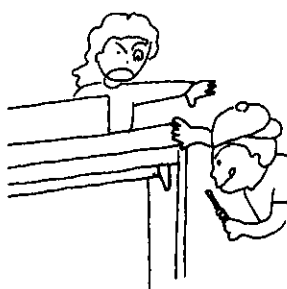
ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。

電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。



エレクトーンの内部には、絶対ふれないで。

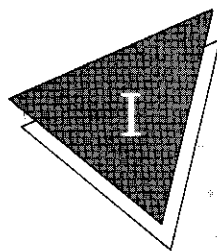


エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

内部に水が入った場合は。

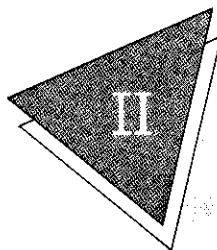


誤って水などをかけ、エレクトーンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



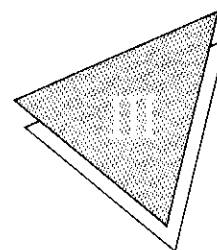
演奏を はじめる前に

	ページ
I-1 おもな機能のやゝわり	2
I-2 音をだしてみよう	3



基本的な機能

II-1 上鍵盤の音色	4
II-2 下鍵盤の音色	5
II-3 ペダル鍵盤の音色	6
II-4 基本レジストレーション	7
II-5 効果	8
II-6 オートリズム	10
II-7 アルペジオコード／リズムック	14
II-8 オートベースコード	15
II-9 メロディーオンコード (ME-55/ME-35)	18
II-10 レジストレーションメモリー	19
II-11 バック	21



マルチメニュー の楽しみ方

III-1 レジストレーションメニュー (ME-55/ME-35)	22
III-2-① ボイスメニュー (ME-15)	23
III-2-② ボイスメニュー (ME-55/ME-35)	24
III-3 ユーザービブラート (ME-55/ME-35)	26
III-4 サステイン (ME-55/ME-35)	27
III-5 コードシーケンスプログラマー (C.S.P.) (ME-55/ME-35)	28
III-6 トランスポジション (ME-55/ME-35)	32
III-7 カセット (ME-55/ME-35)	33

● 付属端子とオプション	34
● 末永く安全にお使いいただくために	35
● エレクトーン教室のご案内	36
● 仕様と音域表	37
● MIDIの楽しみ方	38
● 故障だ！とお考えになる前に	40
● アフターサービスと保証	42
● エレクトーン豆知識	44

I-1 おもな機能のやくわり



(写真はME-55です)

REGISTRATION MENU 1	1	2	3	4	5	6	7	8
------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---

REGISTRATION MENU 2	9	10	11	12	13	14	15	16
------------------------	---	----	----	----	----	----	----	----

VOICE MENU 1	PIPE ORGAN	JAZZ ORGAN	SYNTH STRING	SYNTH BRASS	PIANO	ELECTRIC PIANO	ORIGINAL VOICE	MENU ON
-----------------	---------------	---------------	-----------------	----------------	-------	-------------------	-------------------	---------

VOICE MENU 2	HARPSI- CHORD	HARP	ELECTRIC GUITAR	JAZZ GUITAR	STEEL GUITAR	DISTORTION GUITAR	TIMPANI	PICCOLO
-----------------	------------------	------	--------------------	----------------	-----------------	----------------------	---------	---------

VOICE MENU 3	PAN FLUTE	FLÜGEL HORN	SAXO- PHONE	HARMONICA	COSMIC 1	COSMIC 2	COSMIC 3	TUBA
-----------------	--------------	----------------	----------------	-----------	-------------	-------------	-------------	------

USER VIBRATO	U. LEAD DELAY	U. ORCHESTRAL DEPTH	MIN 0	1	2	3	MAX 4
-----------------	------------------	------------------------	----------	---	---	---	----------

SUSTAIN	UPPER ORCHES.	LOWER ORCHES.	PEDAL	SHORT 0	1	2	3	LONG 4
---------	------------------	------------------	-------	------------	---	---	---	-----------

C. S. P. RECORD	←	→	REGIST./	←	→	EDIT/ CLEAR
--------------------	---	---	----------	---	---	----------------

C. S. P. PLAY MODE	REPEAT	INTRO. COUNT	CHORD CANCEL	*	TRANS- POSITION	NORMAL	↓	↑
-----------------------	--------	-----------------	-----------------	---	--------------------	--------	---	---

CASSETTE	← CASSETTE TO CASSETTE	← CASSETTE FROM CASSETTE	*	*	*	*	*	*
----------	---------------------------	-----------------------------	---	---	---	---	---	---

ボタンひとつで、いろいろなレジストレーション(音色やリズムのセット)を呼びだす。(ME-55/ME-35)(7ページ)

グレーのボタンに音色を移す。(ME-55/ME-35)(24ページ)
* ME-15には、同じ機能がコントロールパネルにあります。(23ページ)

ビブラート効果のかかり具合をセットする。(ME-55/ME-35)(26ページ)

サステイン効果のかかり具合をセットする。(ME-55/ME-35)(27ページ)

伴奏をあらかじめプログラムし、再生する。(ME-55/ME-35)(28ページ)

全体の音程を半音の単位で変える。(ME-55/ME-35)(32ページ)

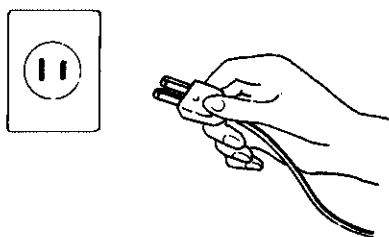
エレクトーンに記憶させた情報をカセットテープに移す。(ME-55/ME-35)(33ページ)

I-2 音をだしてみよう



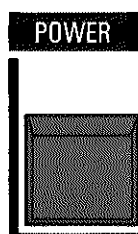
(写真はME-55)

1 電源プラグをコンセントに差しこむ。

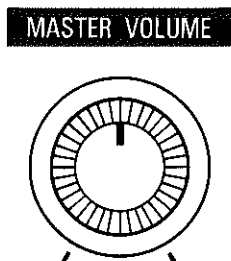


AC100Vのコンセントであることを確認してください。

2 電源スイッチを入れる。

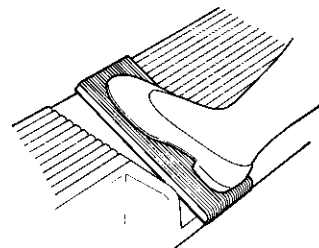


3 マスターボリューム(総合音量)を中央ぐらいにセット。



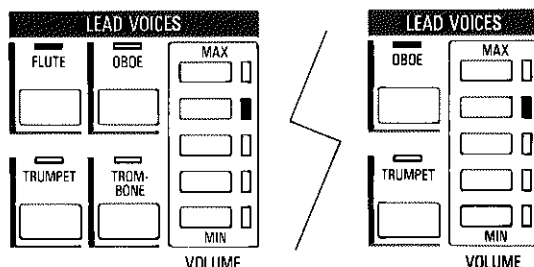
このつまみで、エレクトーン全体の音量を調節します。

4 エクスプレッションペダルを右足で踏みこむ。



このペダルもエレクトーン全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱をつけられるようになっています。

5 リードボイスを図のようにセット。



(ME-55/ME-35)

(ME-15)

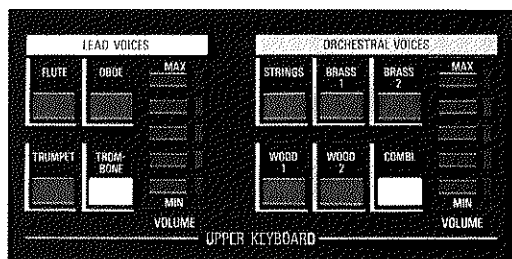
6 上鍵盤を弾いてみましょう。



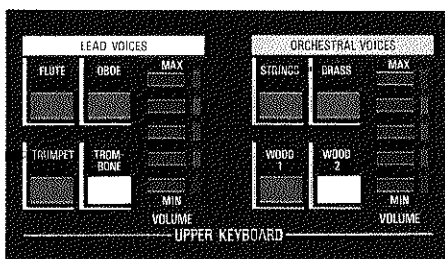
上・下・ペダル鍵盤のそれぞれから、すぐに音をだして楽しみたい場合は、7ページの基本レジストレーションに進んでください。

II-1 上鍵盤の音色

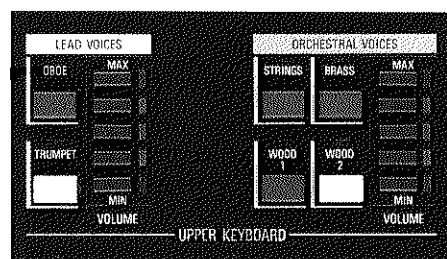
上鍵盤には、オーケストラルボイスとリードボイスという2つの音色のグループがあります。



(ME-55)

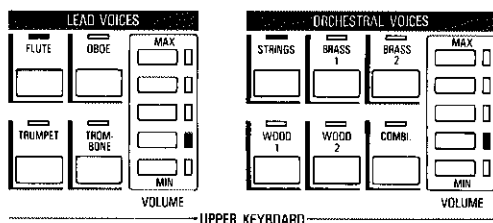


(ME-35)



(ME-15)

1 オーケストラルボイスとリードボイスの音色を、ひとつずつ選ぶ。



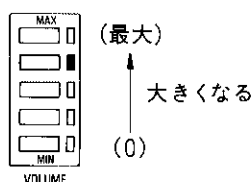
(図はME-55)

オーケストラルボイス：オーケストラで使われるいろいろな楽器の音色を選ぶことができます。ストリングスは弦楽器の音色、ブラスは金管楽器の音色、ウッドは木管楽器の音色、コンビネーションはオルガンの音色です。

リードボイス：オーボエやトランペットなどの楽器の音色を選ぶことができます。このグループの音は、2つ以上の鍵盤を同時におさえた場合、一番高い音がひとつだけ出てくるようになっていきますから、メロディーラインを弾く音色としてセットするのに適しています。

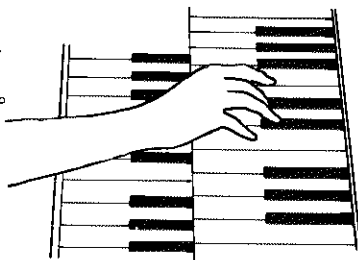
2 ボリュームをセット。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上のボタンをおすと音量は最大になり、一番下のボタンをおすと音量は0になります。



3 上鍵盤を弾いてみましょう。

セットした音色がでます。ほかの音色のボタンをおして、いろいろな楽器の音をだしてみましょう。



より深い理解のために

〔同時発音数〕

上鍵盤オーケストラルボイス：複数の鍵盤を同時におさえた場合、最高7音まで発音します（オートベースコードを使っている時は、最高6音まで発音します。）

リードボイス：複数の鍵盤を同時におさえた場合、一番高い音がひとつだけ発音します。

〔グレーのボタンについて〕

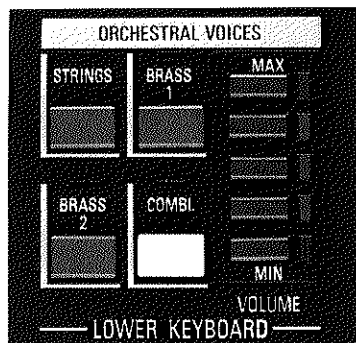
オーケストラルボイスとリードボイスには、それぞれグレーのボタンがひとつずつあります。これらのボタンでは、パネルに表示されている音色を選ぶほかにも、ボイスメニューの音色を移して使うことができます。(ME-55/M E-35は24ページ、ME-15は23ページ参照) また、基本レジストレーションを使っている時はグレーのボタンがONになります。(7ページ参照)

〔音をだしたくない場合〕

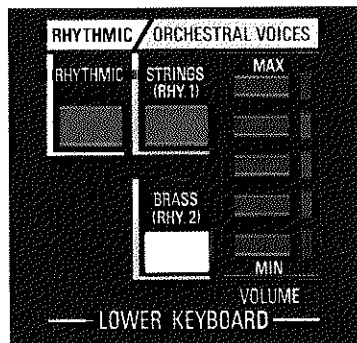
オーケストラルボイスとリードボイスのどちらか片方の音をだしたくない場合は、だしたくない方のボリュームを0（一番下のボタン）にセットしてください。

II-2 下鍵盤の音色 した けん ばん おん しよく

下鍵盤には、オーケストラルボイスという音色のグループがあります。

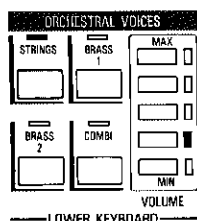


(ME-55/ME-35)

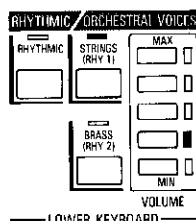


(ME-15)

1 音色をひとつ選ぶ。



(ME-55/ME-35)



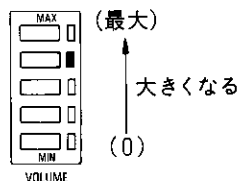
(ME-15)

ストリングスは弦楽器の音色、ブラスは金管楽器の音色、コンビネーションはオルガンの音色です。

なお、ME-15では、リズムミックスのボタンをOFFにしてください。

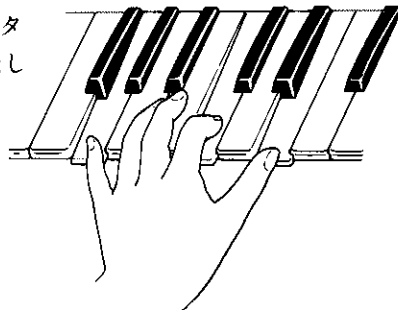
2 ボリュームをセット。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上のボタンをおすと音量は最大になり、一番下のボタンをおすと音量は0になります。



3 下鍵盤を弾いてみましょう。

セットした音色がでてきます。ほかの音色のボタンをおして、いろいろな楽器の音をだしてみましょう。



より深い理解のために

〔同時発音数〕

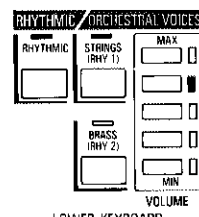
下鍵盤オーケストラルボイス：複数の鍵盤を同時におさえた場合、最高7音まで発音します。(オートベースコードを使っている時は、最高4音まで発音します。)

〔グレーのボタンについて〕

下鍵盤のオーケストラルボイスにはグレーのボタンがあり、パネルに表示されている音色のほか、ボイスメニューの音色を移して使うことができます。(ME-55/ME-35は24ページ、ME-15は23ページ参照)

また、基本レジストレーションを使っている時はグレーのボタンがONになります。(7ページ参照)

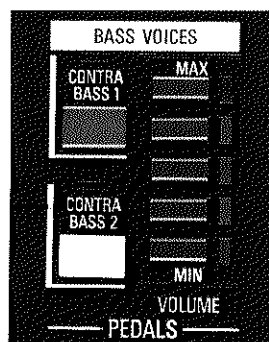
〔ME-15のリズムミックス〕



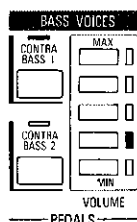
オートリズムを使っている時、このボタンをONにすると、音色が変わり、リズムに合わせて自動的にきざまれるようになります。(14ページ参照)

II-3 ペダル鍵盤の音色 けん ばん おん しょく

ペダル鍵盤には、ベースボイスという音色のグループがあります。



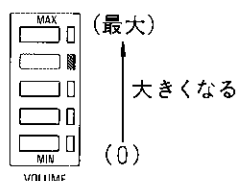
1 音色をひとつ選ぶ。



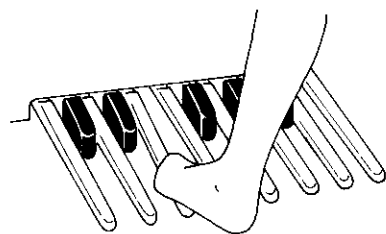
ベースボイスでは、ベース伴奏を担当する低音楽器の音色を選ぶことができます。コントラバス1は弓で弾いた時の音色、コントラバス2は指で弾いた時の音色です。

2 ボリュームをセット。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上のボタンをおすと音量は最大になり、一番下のボタンをおすと音量は0になります。



3 ペダル鍵盤を弾いてみましょう。



セットした音色がでてきます。ほかの音色のボタンをおして、いろいろな楽器の音をだしてみましょう。

なお、ペダル鍵盤を弾いてベース音をだす場合は、オートベースコードをOFFにしてください。

より深い理解のために

〔同時発音数〕

ベースボイス：複数の鍵盤を同時におさえた場合、一番高い音がひとつだけ発音します。

〔グレーのボタンについて〕

ベースボイスのグレーのボタンには、パネルに表示されている音色のほか、マルチメニューの音色を移して使うことができます。(ME-55/ME-35は24ページ、ME-15は23ページ参照)

また、基本レジストレーションを使っている時はグレーのボタンがONになります。(7ページ参照)

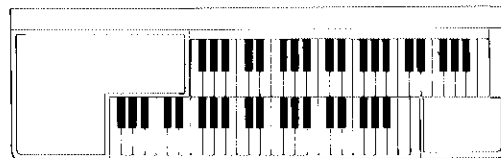
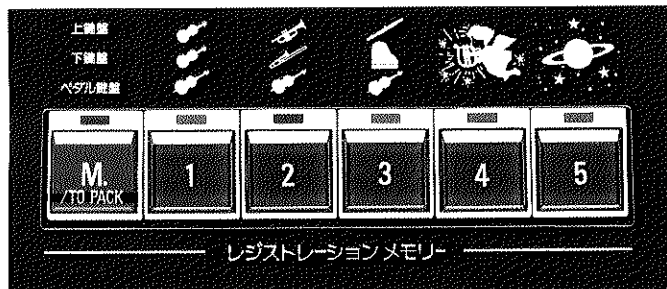
〔オートベースコードを使っている時〕

オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガーコードをONにしている時は、下鍵盤を弾くだけで、ペダル鍵盤の音が自動的にでてきます。(15～17ページ参照)

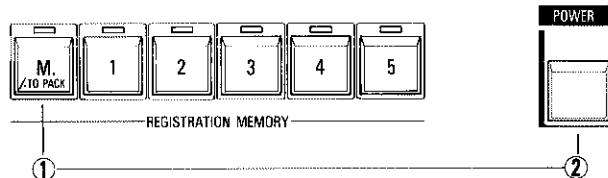
なお、シングルフィンガー、フィンガードコードをONにしている時、ペダル鍵盤を弾いても音はでてこないようになっています。

II-4 基本レジストレーション

5種類の基本的なレジストレーション(音色のセット)を、ボタンひとつで呼び出すことができます。

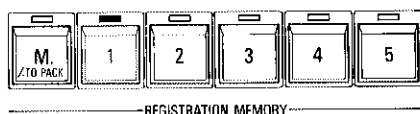


- 1 いったんパワースイッチを切る。それから、メモリー(M.)ボタンをおさえながら、パワースイッチを入れる。



パワースイッチを入れたあと、メモリー(M.)ボタンから指をすぐにはなさず、そのまま約1~2秒間おさえつづけてください。

- 2 数字のボタン(1~5)をひとつおす。

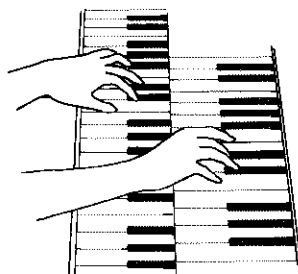


おしたボタンのランプが点灯し、基本レジストレーションのひとつがパネルにセットされます。

- 3 鍵盤を弾いてみましょう。

基本レジストレーションの音色が、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のそれぞれからでてきます。ほかの番号のボタンをおして、いろいろな音色をだしてみましょう。

なお、1~5のボタンでセットされる音色は次のとおりです。



〔基本レジストレーションの音色〕

	1	2	3	4	5
上鍵盤	ストリングス	プラス	フルート	コズミック	シンセプラス
下鍵盤	ストリングス	プラス	ピアノ	コズミック	シンセプラス
ペダル鍵盤	コントラバス	コントラバス	コントラバス	コズミック	シンセベース

より深い理解のために

〔再現したレジストレーションの変更〕

1~5のボタンをおして基本レジストレーションを呼び出すと、上/下鍵盤のオーケストラルボイスとベースボイスのグレーのボタンが点灯し、それぞれのボリュームが自動的にセットされます。これらのセッティングは、必要に応じて変更することができます。

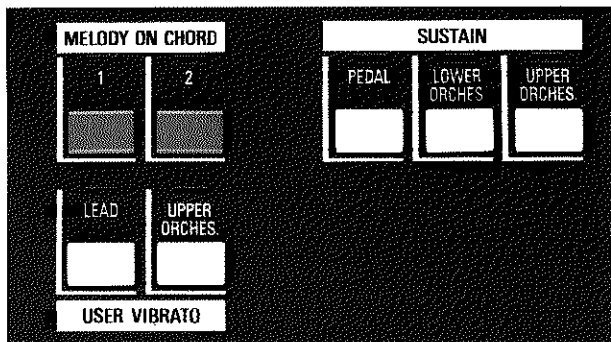
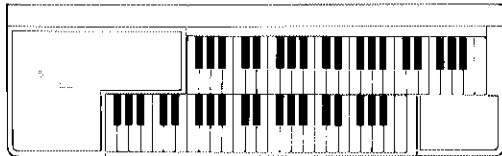
- グレーのボタン以外の音色ボタンをおせば、音色が変わります。
- リードボイスのボリュームを上げれば、リードボイスの音色もでてきます。
- ボリュームの変更もできます。

〔レジストレーションメモリーとの関係〕

- レジストレーションメモリー機能を使えば、1~5のボタンにパネルのセッティングを記憶させることができます(19ページ参照)。基本レジストレーションを1~5のボタンに呼び出したあと、この操作を行うと、基本レジストレーションの替わりにパネルのセッティングが記憶されます。
- パネルのセッティングを記憶させたあと、①の操作によって基本レジストレーションを呼び出すと、1~5のボタンの内容は、すべて基本レジストレーションの内容に入れ替わります。
- 基本レジストレーションだけを使って演奏し、電源をOFFにした場合は、再び電源をONにする時、メモリーボタンをおさなくても基本レジストレーションが呼び出されます。

II-5 効果

音に余韻をつけるサステイン効果と、音をふるわせるビブラート効果を使ってみましょう。



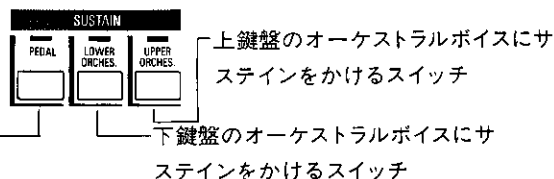
(写真はME-35)

サステイン

- 1 各鍵盤の音色をセット。(4～6ページ参照)

上鍵盤と下鍵盤のオーケストラルボイス、ペダル鍵盤のベースボイスをそれぞれセットしてください。なお、上鍵盤のリードボイスには、サステイン効果はかかりません。

- 2 サステインのボタンを入れる。



ME-55/ME-35では、余韻の長さをマルチメニューでセットできるようになっています。(27ページ参照)

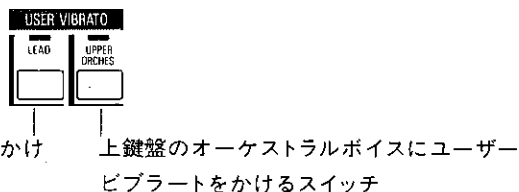
- 3 各鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤から手や足をはなしたあと、音に余韻がつき、だんだんと消えていきます。

ユーザービブラード(ME-55/ME-35)

- 1 上鍵盤の音色をセット。(4ページ参照)

- 2 ユーザービブラートのボタンを入れ、上鍵盤を弾く。



上鍵盤を弾くと、ユーザービブラートがかかった音がでてきます。このユーザービブラートのかかり具合は、マルチメニューでセットします。(26ページ参照)

より深い理解のために

〔サステインの長さについて〕

ME-15: 各鍵盤の音にふさわしい余韻の長さがセットされています。

ME-55/ME-35: マルチメニューで余韻の長さを鍵盤ごとにセットすることができます。(27ページ参照)

なお、マルチメニューで余韻の長さを0にセットしていると、サステインはかかりません。

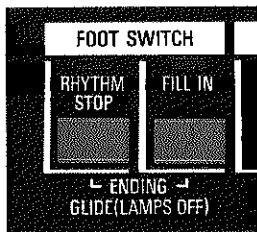
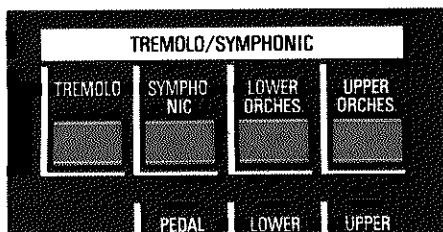
〔プリセットビブラートについて〕

上鍵盤と下鍵盤の音色、およびボイスメニューの音色、基本レジストレーションの音色には、あらかじめ各音色にふさわしいようにビブラート効果が組みこまれています。

〔プリセットビブラートとユーザービブラートの関係〕

ME-55/ME-35では、ユーザービブラートのボタンをONにすることで、プリセットビブラートの代わりに、自分でセットしたビブラート効果をつけることができます。ユーザービブラートをつけることができるのは、上鍵盤のオーケストラルボイスとリードボイスです。(26ページ参照)

ME-55には、音にひろがりをもたせるトレモロ／シンフォニック効果と、変化にとんだ表現ができるグライド効果があります。

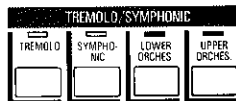


(写真はME-55)

トレモロ／シンフォニック(ME-55)

1 上鍵盤と下鍵盤のオーケストラルボイスをセット。(4～5ページ参照)

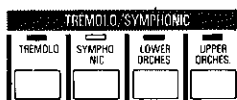
2 右側のボタンを入れる。



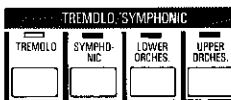
下鍵盤のオーケストラルボイスに効果をつけるスイッチ

上鍵盤のオーケストラルボイスに効果をつけるスイッチ

3 トレモロまたはシンフォニックを入れ、鍵盤を弾く。



トレモロ：音がうなり、ひろがりのある響きになる



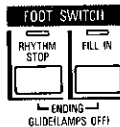
シンフォニック：多くの楽器で合奏しているような豊かな響きになる

グライド(ME-55)

1 上鍵盤のリードボイスをセット。(4ページ参照)

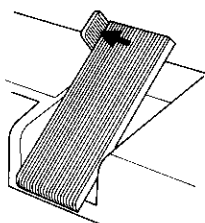
2 フットスイッチセクターを2つともOFFにする。

フットスイッチセクターでは、フットスイッチの働きを選ぶことができます。全部で4つの働きがあり、グライド効果はそのうちのひとつです。(13ページ参照)



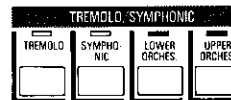
3 上鍵盤を弾いてリードボイスの音をだしながら、フットスイッチを左におす。

フットスイッチを左におすと、リードボイスの音程が約半音さがり、フットスイッチから足を離すと、徐々に元の音程にもどります。



より深い理解のために

(コーラス効果)



トレモロとシンフォニックのボタンを2つともOFF(右側のボタンだけON)にすると、トレモロ効果よりも音がゆるやかにうねるコーラス効果をつけることができます。

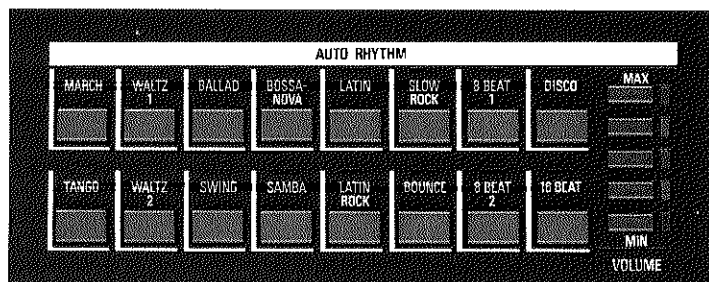
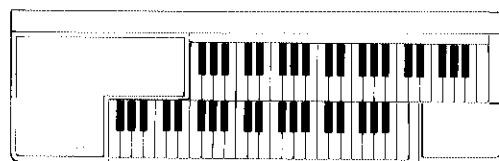
(グライド効果について)

グライド効果を使うと、トロンボーンやギターのスライド奏法のような変化にとんだ表現ができます。

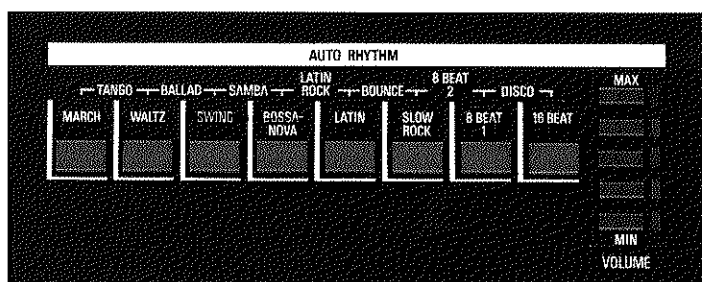
なお、グライド効果をかけている時は、リードボイスにビブラート効果がかからなくなります。

II-6 オートリズム

いろいろな打楽器の音で自動的にリズムがでできます。まず、基本的な使い方を覚えましょう。

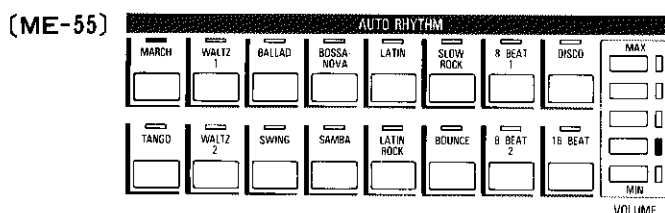


(写真はME-55)



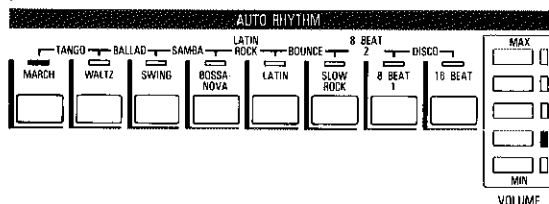
(写真はME-35)

1 リズムパターンをひとつ選ぶ。



ME-55では、16種類のリズムパターンのなかから、パターンをひとつ選んでください。

(ME-35/ME-15)



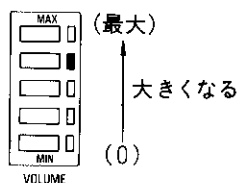
ME-35とME-15では、8つのボタンで15種類のリズムパターンが選べるようになっています。

下の列のパターン：ボタンをひとつおすことで選ぶことができます。

上の列のパターン：隣あった2つのボタンを同時におしてください。ランプが2つ点灯し、上の列のパターンがセットされます。(例えば、タンゴを選ぶ場合は、マーチとワルツのボタンを同時におします。)

2 ボリュームをセット。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上のボタンをおすと音量は最大になり、一番下のボタンをおすと音量は0になります。



より深い理解のために

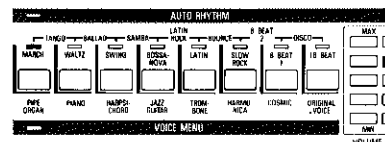
〔リズムパターンと伴奏パターンの関係〕

ME-55とME-35のアルペジオコード、ME-15のリズミックでは、選んだリズムパターンにふさわしい伴奏パターンが自動的に得られるようになっています。(14ページ参照)

また、オートベースコードによるベース伴奏も、選んだリズムパターンにふさわしいパターンが自動的に得られるようになっています。(15ページ参照)

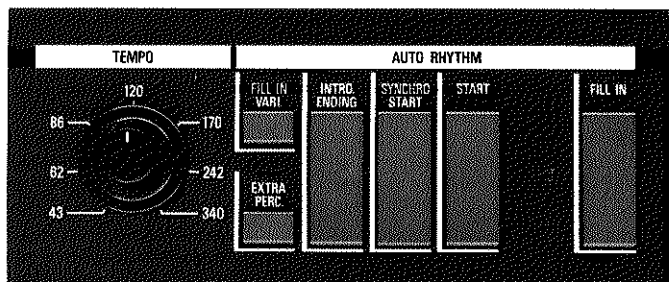
〔ME-15のオートリズムとボイスメニュー〕

ME-15では、リズムパターンを選ぶ8つのボタンを、ボイスメニュー機能の操作でも使うようになっています。

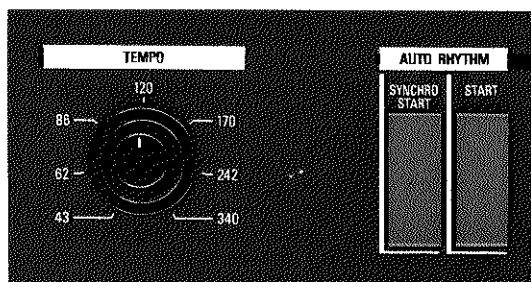


通常の場合：左上のランプが点灯し、リズムパターンを選ぶことができます。

グレーのボタンをおした場合：各音色のグループにあるグレーのボタンをおしている間は、左下のランプが点灯し、ボイスメニューの音色を移すことができます。(23ページ参照)

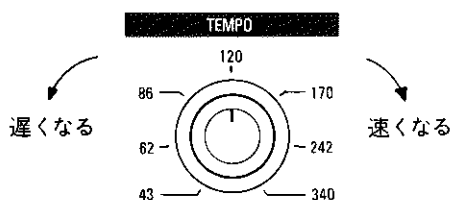


(写真はME-55)



(写真はME-15)

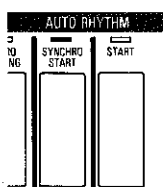
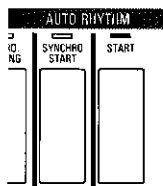
3 テンポをセット。



テンポコントロールつまみで、リズムのテンポをセットしてください。右に回すほど、テンポが速くなります。

4 リズムをスタートさせる。

スタートスイッチ: 右側のスタートスイッチを入れると、リズムがすぐにスタートします。もう1度スイッチをおすと、リズムがストップします。



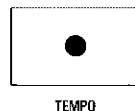
シンクロススタートスイッチ: 左側のシンクロススタートスイッチを入れた場合は、リズムがすぐにはスタートせず、下鍵盤(またはペダル鍵盤)を弾くと同時にスタートします。もう1度スイッチをおすと、リズムがストップします。

より深い理解のために

【テンポコントロールの数字について】

テンポコントロールつまみの回りに表示されている数字は、1分間に打つ4分音符の数でテンポを表わしたものです。これはメトロノームの数字に相当しますから、リズムのテンポをセットする時の目安にしてください。

【テンポランプ】



レジストレーションメモリーの横にあるテンポランプは、テンポコントロールでセットしたテンポに応じて点滅します。

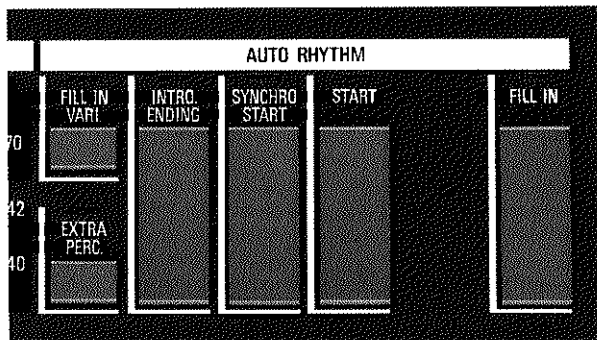
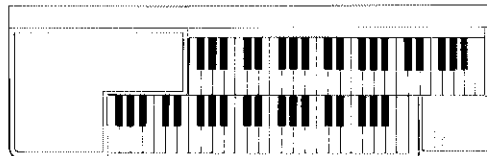
リズムがスタートしている時: リズムの小節の1拍目ごとに点滅します。リズムと演奏のタイミングを合わせたい時に見てください。

シンクロススタートをONにして、リズムをまだスタートさせていない時: 4分音符の単位で点滅します。演奏をはじめる前に、メトロノームの替わりとして、テンポを目で確認してください。

【シンクロススタートについて】

シンクロススタートを使えば、伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。オートベースコード、ME-55とME-35のアルペジオコード、ME-15のリズムを使って伴奏を弾く場合は、このシンクロススタートでリズムをスタートさせると便利です。(14、15、17ページ参照)

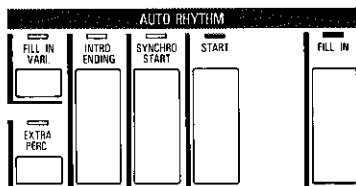
ME-55とME-35には、フィルインやイントロ/エンディングなど、リズムに変化をつける機能があります。



(写真はME-55)

フィルイン(ME-55/ME-35)

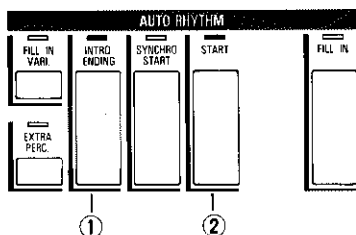
- 1 リズムをスタートさせる。(11ページ参照)
- 2 フレーズの切れ目などで、フィルインのスイッチをおす。



スイッチをおすと、リズムパターンがフィルインのパターン(基本的なパターンを変化させた特別なパターン)に切り替わります。フィルインは、その小節の終わりまでつづき、次の小節からは元のリズムパターンにもどります。

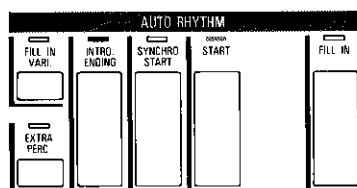
イントロ/エンディング(ME-55/ME-35)

- 1 イントロ/エンディングのスイッチを入れてから、リズムをスタートさせる。



1小節のイントロパターンが入り、そのあとリズムがスタートします。なお、シンクロスタートを使ってリズムをスタートさせる場合でも、イントロパターンをだすことができます。

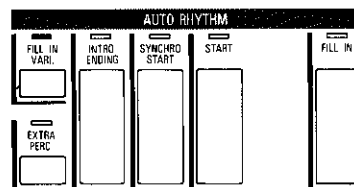
- 2 曲の終わりから2小節目で、イントロ/エンディングのスイッチをおす。



スイッチをおすと、リズムパターンがエンディングパターンに切り替わります。エンディングパターンは2小節つづき、そのあとリズムは自動的にストップします。

より深い理解のために

〔フィルインバリエーション〕



フィルインバリエーションのボタンを入れると、フィルインのパターンを変えることができます。

〔フィルインを2小節以上入れたい場合〕

フィルインのスイッチをおしつつれば、2小節以上にわたってフィルインパターンを入れることができます。

〔フィルインをイントロとして使うには〕

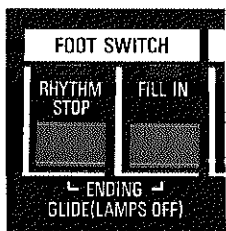
リズムをスタートさせる前に、フィルインのスイッチをONにしておけば、フィルインのパターンをイントロとして出すことができます。

〔リズムパターンとの関係について〕

フィルイン、およびイントロ/エンディングは、各リズムパターンにふさわしいパターンがそれぞれ得られるようになっています。

〔伴奏パターンとの関係について〕

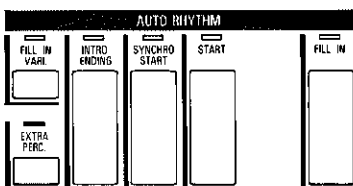
フィルイン、およびエンディングのパターンがでている間は、伴奏のパターン(ME-55/ME-35のアルペジオコード、ME-15のリズミック、およびオートベースコードのベースパターン)も一緒に変化します。



(写真はME-55)

エキストラパーカッション(ME-55/ME-35)

1 エキストラパーカッションのボタンを入れる。



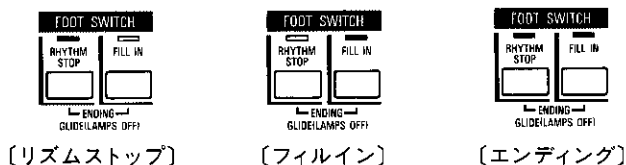
2 リズムをスタートさせる。(11ページ参照)

特別な打楽器の音(ラテンパーカッションやハンドクラップなど)が、選んだリズムパターンにプラスされてでできます。

フットスイッチ(ME-55)

1 フットスイッチセレクターで、フットスイッチのはたらきを選ぶ。

フットスイッチのはたらきは4つあり、そのうち3つはリズムをコントロールするための機能です。(もうひとつのグライド効果については9ページ参照。)



〔リズムストップ〕

〔フィルイン〕

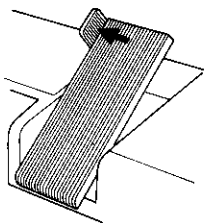
〔エンディング〕

2 リズムをスタートさせる。(11ページ参照)

3 フットスイッチを左におす。

エクスプレッションペダルの横についているフットスイッチを、つま先で左におしてください。

①の操作で選んだ機能がはたらきます。



リズムストップ: フットスイッチをおすと、リズムがストップします。もう1度おすと、リズムが再びスタートします。

フィルイン: フットスイッチをおすと、フィルインのパターンに切り替わります。次の小節からは元のパターンにもどります。

エンディング: フットスイッチをおすと、2小節のエンディングのパターンが入り、そのあとリズムは自動的にストップします。

より深い理解のために

〔エキストラパーカッションで加わる楽器音〕

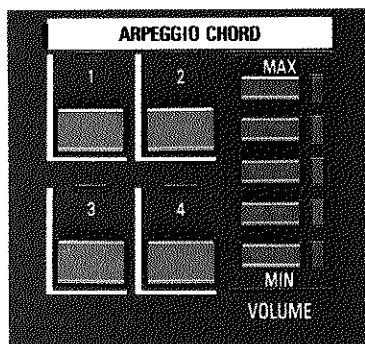
エキストラパーカッションを入れると、各リズムパターンにふさわしい1つの打楽器音がプラスされるようになっています。したがって、選んだリズムパターンによって、プラスされる打楽器音は異なります。

〔フットスイッチのリズムストップについて〕

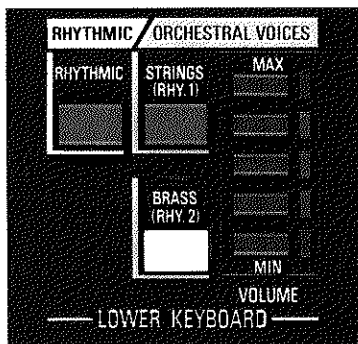
フットスイッチをおして、リズムをストップさせると、リズムストップのランプが点滅をはじめます。もう1度フットスイッチをおしてリズムを再スタートさせると、ランプは点灯にもどります。また、フットスイッチをおしてリズムをストップさせている間に、イントロ/エンディングのスイッチをONにして、もう1度フットスイッチをおせば、1小節のイントロのパターンをだすことができます。

II-7 アルペジオコード／リズムミック

下鍵盤で和音をおさえるだけで、リズムに連動した伴奏が自動的に演奏されます。



(写真はME-55)

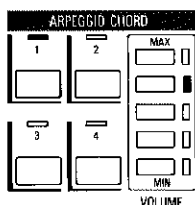


(写真はME-15)

アルペジオコード(ME-55/ME-35)

1 パターンをひとつ選び、ボリュームをセットする。

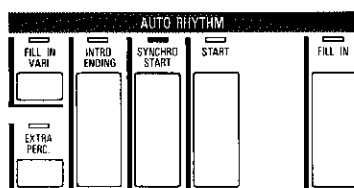
1・2:リズムに連動してきざまれるコード伴奏(リズムミック)のパターンを選ぶことができます。
3・4:リズムに連動した分散和音の伴奏(アルペジオ)のパターンを選ぶことができます。



最大
0
(大きくなる)

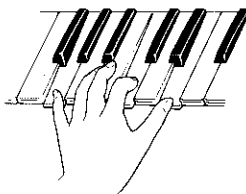
2 シンクロスタートのスイッチを入れる。(11ページ参照)

シンクロスタートを入れる替わりに、スタートスイッチでリズムをスタートさせてもかまいません。



3 下鍵盤で和音をおさえる。

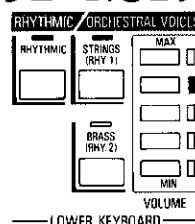
下鍵盤をおさえつづけるだけで、リズムに連動した伴奏パターンが自動的にでできます。



リズムミック(ME-15)

1 リズムミックのボタンを入れ、ボリュームをセットする。

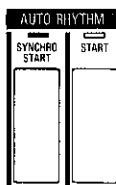
リズムミックのボタンは、下鍵盤のオーケストラルボイスを、リズムに連動してきざまれる音色に切り替えるはたらきをもっています。リズムミックのボタンを入れ、2つの音色のどちらかを選んでください。



最大
0
(大きくなる)

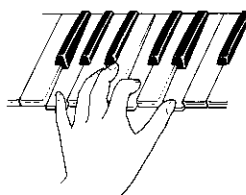
2 シンクロスタートのスイッチを入れる。(11ページ参照)

シンクロスタートを入れる替わりに、スタートスイッチでリズムをスタートさせてもかまいません。



3 下鍵盤で和音をおさえる。

下鍵盤をおさえつづけるだけで、リズムに連動した伴奏パターンが自動的にでできます。



より深い理解のために

〔パターンと音色について〕

アルペジオコード、リズムミックでは、各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。また、アルペジオコード、リズムミックの音色も、各リズムパターンにふさわしい音色がでてくるようになっています。

〔オートリズムとの関係について〕

ME-55/ME-35のアルペジオコード、ME-15のリズムミックは、リズムに連動してはたらくようになっていますから、必ずオートリズムと一緒に使ってください。

〔オートベースコードと一緒に使うと〕

アルペジオコード、リズムミックを、オートベースコードと一緒に使うと、リズムに連動した伴奏をより簡単にだすことができます。また、オートベースコードのメモリーボタンをONにすれば、下鍵盤から指をはなしたあともアルペジオコード、リズムミックの音が鳴りつづけます。(15、16ページ参照)

〔ベースパターンとの関係〕

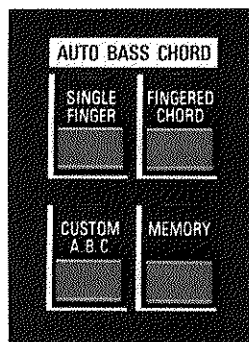
オートベースコードと一緒に使っている時、アルペジオコードのパターンを変えると、ベースパターンも変わります。(ME-55/ME-35のみ)

〔アルペジオコードの音をだしたくない場合〕

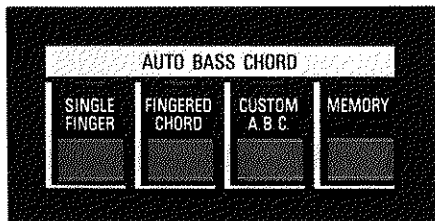
下鍵盤の伴奏をオーケストラルボイスの音だけで弾きたい場合は、アルペジオコードのボリュームを0にセットしてください。

II-8 オートベースコード

下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的に演奏できる機能です。まず、指1本でも伴奏が弾けるシングルフィンガーを使ってみましょう。



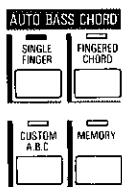
(写真はME-55)



(写真はME-15)

シングルフィンガー

- 1 シングルフィンガーのボタンを入れる。

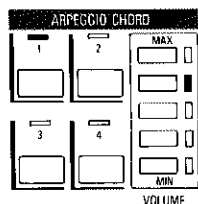


(ME-55/ME-35)

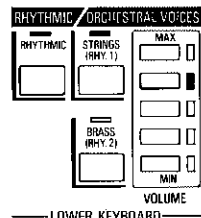


(ME-15)

- 2 アルペジオコード、リズムックをセット。(14ページ参照)

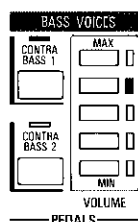


(ME-55/ME-35)



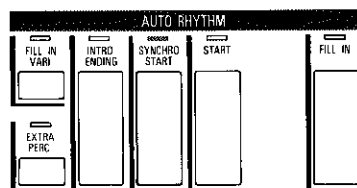
(ME-15)

- 3 ベースボイスをセット。(6ページ参照)



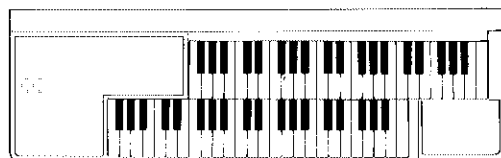
— PEDALS —

- 4 オートリズムをセットし、シンクロススタートを入れる。(10、11ページ参照)



(図はME-55/ME-35)

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポをセットしてから、シンクロススタートのスイッチを入れておきましょう。リズムと伴奏を同時にスタートさせることができ、とても便利です。



より深い理解のために

〔オートベースコードによる下鍵盤の伴奏〕

アルペジオコード/リズムック：和音が自動的に検出され、リズムに連動した伴奏となることができます。

下鍵盤のオーケストラルボイス：ME-55/M E-35でオーケストラルボイスをセットした場合、およびME-15でリズムックのボタンをOFFにした場合は、和音が自動的に検出され、持続音の和音伴奏がでできます。

〔オートリズムを使わない自動伴奏〕

下鍵盤の音：オーケストラルボイスの音色で、和音伴奏が自動的にでできますが、アルペジオコード、リズムックの伴奏は得られません。ペダル鍵盤の音：下鍵盤でおさえた音をもとにして、1音が自動的に検出されてでできます。

〔ベース伴奏のパターンについて〕

オートベースコードによって自動的に演奏されるベース伴奏は、各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。また、同じリズムパターンでも、アルペジオコードのパターンを変えることで、ベース伴奏のパターンを変えることができます。

5 下鍵盤を1音おさえてみましょう。

和音伴奏(メジャーコード)とベース伴奏が、リズムに連動して自動的に演奏されます。

〔下鍵盤と和音(メジャーコード)の関係〕

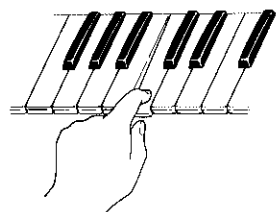


下鍵盤でおさえる位置

C	D	E	F	G	A	B
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ
ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ
ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ

コードネーム

でてくる和音
(メジャーコード)



6 いろいろな和音(コード)をだしてみよう。

メジャーコード: 下鍵盤を1音おさえる。

(上図を参照)

(例:C)



(例:Cm)



マイナーコード: メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の黒鍵を一緒におさえる。

(例:C7)



セブンスコード: メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の白鍵を一緒におさえる。

(例:Cm7)

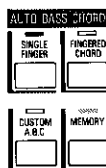


マイナーセブンスコード: メジャーコードでおさえる音(根音)と、それより左側の黒鍵と白鍵を一緒におさえる。

メモリー

メモリーのボタンを入れ、下鍵盤をおさえ、すぐに指をはなす。

下鍵盤から指をはなしたあとも、和音伴奏とベース伴奏がリズムと一緒に鳴りつづけます。



(図はME-55/ME-35)

より深い理解のために

〔コードを変える時の注意〕

下鍵盤を2つ以上おさえてマイナーコードやセブンスコードなどをだしている時、レガートに弾くとコードが正しく変わらない場合があります。コードを変える時は、いったん鍵盤から指をはなすようにしてください。

〔シングルフィンガーによる自動伴奏の音域〕

シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域の音をおさえても、実際にでてくる自動伴奏の音域は変わらないようになっています。

〔メモリーについて〕

メモリーは、シングルフィンガーだけでなく、フィンガードコード、カスタムA.B.C.を選んでいてもはたります。

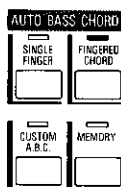
また、オートベースコードを使わない場合でも、リズムをスタートさせていれば、下鍵盤から指をはなしたあとも伴奏が鳴りつづけます。

下鍵盤で和音をおさえるだけで自動伴奏ができるフィンガードコードや、下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をだすことができるカスタムA.B.C.を使ってみましょう。

フィンガードコード

1 フィンガードコードのボタンを入れる。

必要に応じて、メモリーのボタンも入れてください。



(図はME-55/ME-35)

2 アルペジオコード、リズムックをセット。(14ページ参照)

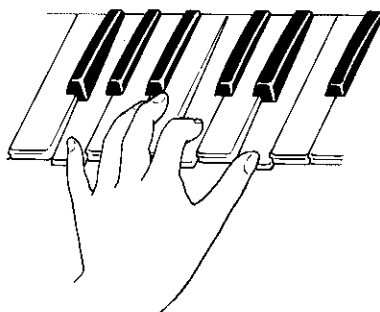
3 ベースボイスをセット。(6ページ参照)

4 オートリズムをセットし、シンクロススタートを入れる。(10、11ページ参照)

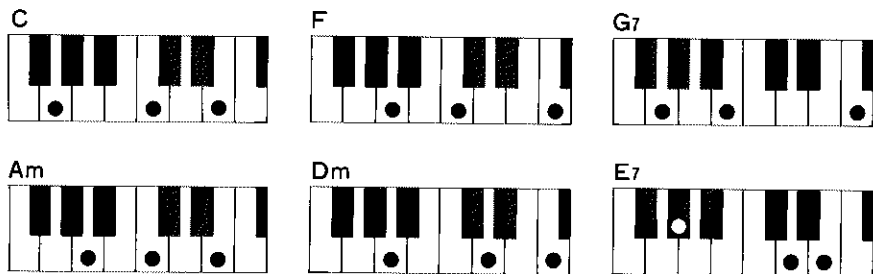
5 下鍵盤でいろいろな和音をおさえてみましょう。

和音伴奏とベース伴奏が、リズムに連動して自動的に演奏されます。

下鍵盤でおさえた音をもとに自動伴奏ができますから、いろいろな種類の和音を弾いてみましょう。

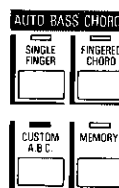


〔和音のおさえ方の例〕



より深い理解のために

〔カスタムA.B.C.〕



- ① カスタムA.B.C.のボタンを入れる。
- ② アルペジオコード、リズムックをセット。
- ③ ベースボイスをセット。
- ④ オートリズムをセットし、シンクロススタートまたはスタートスイッチを入れる。
- ⑤ 下鍵盤で和音をおさえ、ペダル鍵盤を1音おさえる。

和音伴奏とベース伴奏が、リズムに連動して自動的に演奏されます。ベース伴奏の音はペダル鍵盤でおさえた音と、下鍵盤でおさえた和音の種類にもとづいてできます。

〔フィンガードコード、カスタムA.B.C.で検出される和音〕

フィンガードコードまたはカスタムA.B.C.を使っている時は、次の15種類の和音を検出されるようになっています。

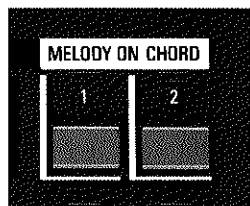
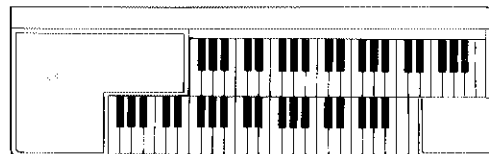
C, Cm, C7, Cm7, Cmaj7, Cdim, Caug, Caug7, Csus4, C7sus4, C6, Cm7-5, C-5, C7-5, Cm6 (すべてCを根音とするコードネームで表記)

〔カスタムA.B.C.を使っている時〕

カスタムA.B.C.を使っている時、メモリーのボタンを入れると、ベース伴奏だけがメモリーされるようになっています。

II-9 メロディーオンコード (ME-55/ME-35)

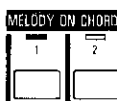
上鍵盤のメロディーにハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるメロディー演奏が楽しめます。



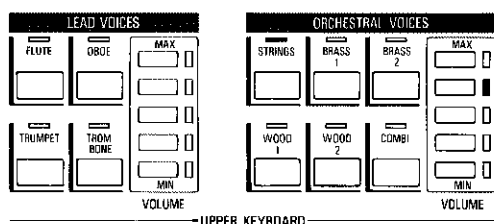
1 メロディーオンコードのボタンをひとつ選ぶ。

1: 最高2音までのハーモニーがメロディーに重なります。

2: 最高3音までのハーモニーがメロディーに重なります。



2 上鍵盤のオーケストラルボイスをセット。

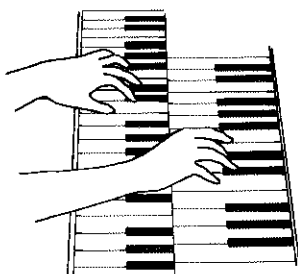


(図はME-55)

ハーモニーの音色として、上鍵盤のオーケストラルボイスをセットします。リードボイスは、メロディーラインを弾く音色としてセットしてください。また、下鍵盤の音色もセットしましょう。

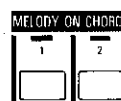
3 下鍵盤で和音をおさえ、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。

メロディーの下に、ハーモニーが自動的に重なり、厚みのあるメロディー演奏ができます。



より深い理解のために

〔1と2を両方とも入れた場合〕



1と2のボタンを両方ともONにすると、最大3音までのハーモニーがメロディーよりややはなれた音域からでできます。

〔オートベースコードと一緒に使うと〕

オートベースコードのシングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA.B.C.のいずれかをONにすると、下鍵盤からでてくる和音の音がハーモニーの音として上鍵盤からもでできます。

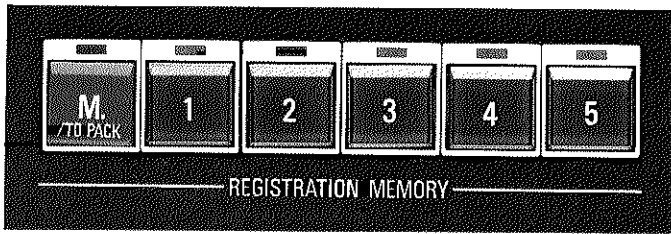
また、メモリーのボタンをONにして、リズムをスタートさせれば、下鍵盤から指をはなしても、ハーモニーの音がでできます。

〔メロディーオンコードを使う時の注意〕

- ハーモニーの音としてでてくるのは、上鍵盤のオーケストラルボイスの音色です。必ず上鍵盤のオーケストラルボイスのボリュームを、音のでる位置にセットしてください。
- ハーモニーの音は、下鍵盤で弾いた和音の音が検出され、上鍵盤からでてくるようになっています。したがって、ハーモニーの音をだしたい時には、下鍵盤で和音をだしながら、上鍵盤を弾いてください。
- 上鍵盤の低音域でメロディーを弾いた場合は、ハーモニーの音がでないことがあります。

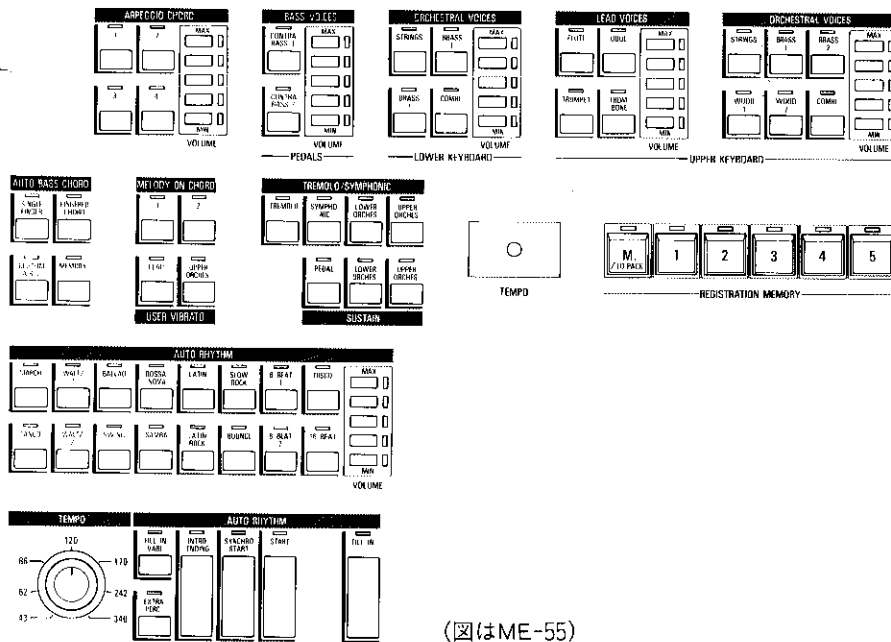
II-10 レジストレーションメモリー

レジストレーションメモリーでは、基本レジストレーションを再現させる使い方(7ページ参照)のほか、パネルでセットしたレジストレーションを記憶させ、それを再現させることができます。



レジストレーションをメモリーする操作

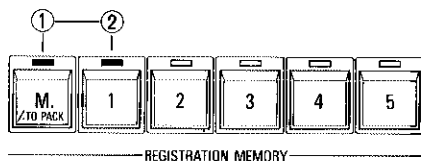
1 記憶させるレジストレーションをパネルでセット。



(図はME-55)

鍵盤の音色とそのボリューム、サステインなどの効果、リズムパターン、リズムのテンポなど、パネルのほとんどのセッティングを記憶させることができます。

2 メモリー(M.)ボタンをおしながら、数字のボタン(1~5)のひとつをおす。



おした数字のボタンのランプが点滅し、パネルでセットしたレジストレーションが記憶されたことを示します。ほかの数字のボタンにも、同様の操作で、いろいろなレジストレーションを記憶させてみましょう。

より深い理解のために

〔記憶させることができる機能〕

- 各鍵盤の音色とそのボリューム
- グレイのボタンに移したボイスメニューの音色(23、24ページ参照)
- サステイン、ユーザービブラート[ME-55/M E-35]、トレモロ/シンフォニック[ME-55]
- マルチメニューでセットしたユーザービブラートとサステインのかかり具合[ME-55/M E-35](26、27ページ参照)
- リズムのパターンとボリューム
- リズムのテンポ
- フィルインバリエーション[ME-55/M E-35]、エキストラパーカッション[ME-55/M E-35]
- フットスイッチセクター[ME-55]
- アルペジオコード/リズムミックのパターンとボリューム
- オートベースコード
- メロディーオンコード[ME-55/M E-35]

〔メモリーの操作とボタンのランプについて〕

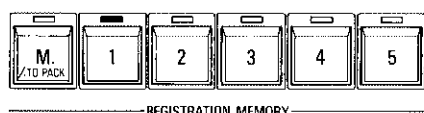
1~5のボタンのランプは、つねにどれかひとつが点灯していますが、レジストレーションをメモリーする操作は、ランプの点灯・消灯に関係なく行うことができます。

点灯しているボタンにメモリーの操作をした場合：点灯していたボタンに新しいレジストレーションが記憶されます。ランプは点滅したあと、点灯にもどります。

消灯しているボタンにメモリーの操作をした場合：メモリーの操作をしたボタンに新しいレジストレーションが記憶されます。点灯していたボタンの記憶内容は変わりません。ランプはメモリーの操作をした時だけ点滅し、点滅後は消灯になります。

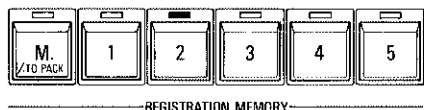
メモリーしたレジストレーションを再現する操作

1 数字のボタン(1~5)をひとつおす。



おしたボタンのランプが点灯し、そのボタンに記憶されているレジストレーションがパネルに再現されます。

2 べつのボタンをおして、レジストレーションを変える。



べつのボタンをおすたびに、パネルのセッティングが変わります。ボタンひとつでレジストレーションが変わりますから、演奏中でも音色やリズムを簡単に変更することができます。

メモリーした情報の保存

バックに移して保存する。

RAMパック(オプション)をエレクトーンに差しこみ、トウーパックの操作をすれば、1~5のボタンに記憶させたレジストレーションの情報をRAMパックに移すことができます。(21ページ参照)

カセットテープに移して保存する。(ME-55/ME-35)

ME-55/ME-35では、1~5のボタンに記憶させたレジストレーションの情報をカセットテープに移すこともできます。(33ページ参照)

より深い理解のために

〔再現したレジストレーションの変更〕

1~5のボタンをおしてメモリーしたレジストレーションを再現したあと、パネルを操作すればレジストレーションを部分的に変更することができます。パネルを操作しても、メモリーされているレジストレーションの内容は変わりません。

〔メモリーのボタンについて〕

赤い[M./TO PACK]ボタンは、レジストレーションをメモリーする時に使うほか、基本レジストレーションをセットする時(7ページ参照)、バックにエレクトーンの情報に移す時(21ページ参照)にも使います。

〔メモリーした情報の保護〕

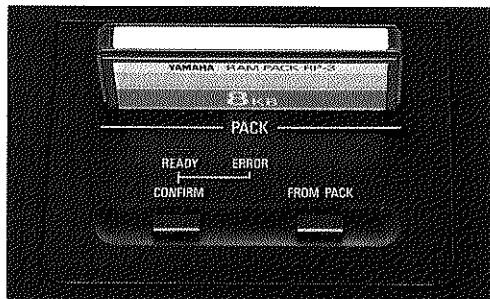
エレクトーンに記憶させたレジストレーションの情報は、電源をOFFにしても、内部の電池によってバックアップされます。電源をOFFにしたままでも、最低1週間は消えずに保護されます。なお、1週間以上電源をOFFにしたままにしてバックアップの期間をすぎると、1~5のオタンの内容は、基本レジストレーションの内容に入れ替わります。

〔パネルセッティングのバックアップ〕

レジストレーションメモリーの内容のバックアップとはべつに、パネルのセッティングもバックアップされます。電源をOFFにすると、その時パネルでセットされているレジストレーションが自動的に記憶され、再び電源をONにすると、そのレジストレーションがパネルに再現されます。

II-11 パック

エレクトーンに記憶させたレジストレーションメモリーとC.S.P.(28ページ参照)の情報を、RAMパック(オプション)に移すことができます。また、RAMパックに移した情報は、いつでもエレクトーンにもどすことができます。

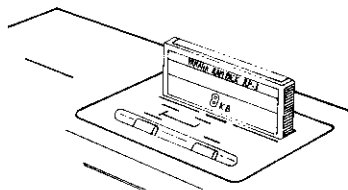


RAMパックに情報を移す操作(トゥーパック)

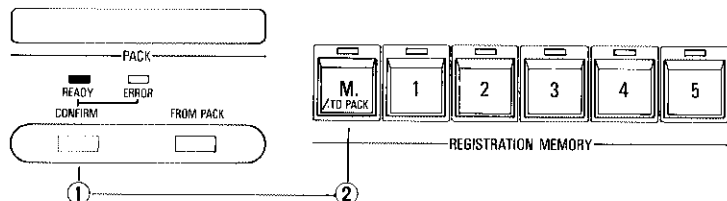
1 レジストレーションメモリー、およびC.S.P.(ME-55/ME-35)に情報を記憶させる。(19、28ページ参照)

2 RAMパック(RP-3)をエレクトーンに差しこむ。

図のように、RAMパックの表側(ラベルがはられている面)を手前にして、しっかりと差しこんでください。緑色のレディのランプが点灯します。



3 コンファームのボタンをおしながら、トゥーパックのボタンをおす。



コンファームのボタンをおさえたまま、トゥーパックのボタンをおします。(トゥーパックのボタンはレジストレーションメモリーのメモリーボタンと共用です)

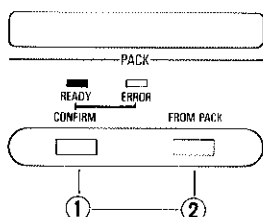
レディのランプが数回点滅し、エレクトーンの情報がRAMパックに移ったことを示します。

RAMパックから情報をもどす操作(フロムパック)

1 情報を移したRAMパックをエレクトーンに差しこむ。

緑色のレディのランプが点灯します。

2 コンファームのボタンをおしながら、フロムパックのボタンをおす。



コンファームのボタンをおさえながら、フロムパックのボタンをおしてください。

レディのランプが点滅し、RAMパックの情報がエレクトーンにもどったことを示します。



より深い理解のために

〔メモリープロテクト〕



RAMパックに移した情報を消したくない場合は、RAMパックに付いているメモリープロテクトのスイッチをONの位置にセットしてください。誤ってトゥーパックの操作をしても、新たな情報はメモリーされず、RAMパックに記憶されている情報が保護されます。(フロムパックの操作は可能です。)

また、再度RAMパックに新たな情報をメモリーしたい場合は、メモリープロテクトをOFFの位置にもどしてください。

〔エラーのランプが点滅した場合〕

赤いエラーのランプは、次のような場合に約1秒間点滅し、アラーム音が3回鳴ります。操作方法などを間違えていないかどうかを確認してください。

- 未使用のRAMパックを初めてエレクトーンに差しこんだ場合。(この場合、コンファームのボタンをおして、トゥーパックの操作を行ってください。)
- パックの差しこみ方が不完全な場合。
- RAMパックのメモリープロテクトスイッチがONになっている時、トゥーパックの操作をした場合。
- RAMパックにメモリーされている情報が、同一モデルのものでない場合。

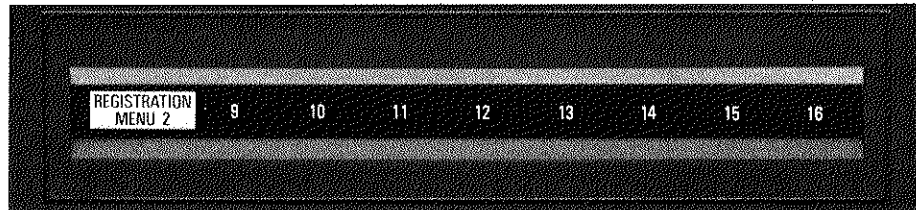
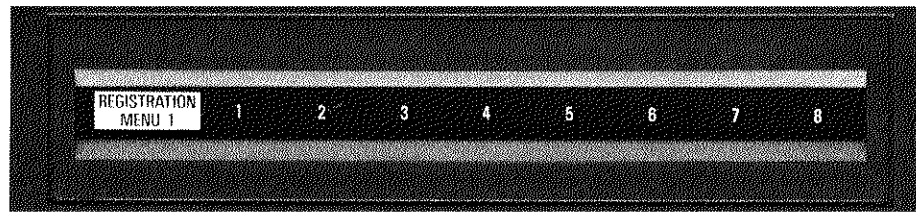
〔RAMパックを使用する場合の注意〕

- トゥーパックの操作をすると、それまでRAMパックに記憶されていた情報は消え、新たな情報に入れ替わります。また、フロムパックの操作を行うと、それまでエレクトーンに記憶されていた情報は消え、RAMパックの情報に入れ替わります。
- RAMパックにメモリーした情報をエレクトーンにもどす場合は、同一モデルのエレクトーンをお使いください。

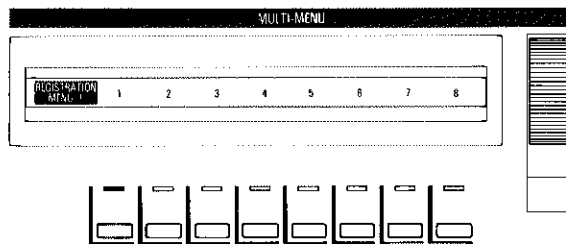
III. マルチメニューの楽しみ方

III-1 レジストレーションメニュー (ME-55/ME-35)

いろいろな音楽ジャンルのレジストレーションを、ボタンひとつで再現させることができます。



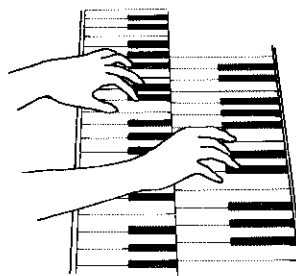
1 レジストレーションメニュー1、または2のボタンをひとつおす。



まず、マルチメニューのレジストレーションメニュー1、またはレジストレーションメニュー2の面をだし、1～16のボタンのひとつをおしてください。おしたボタンに記憶されているレジストレーションがパネルに再現されます。

2 リズムをスタートさせ、演奏をはじめましょう。

リズムのテンポは演奏する曲にあわせてセットしてください。また、ほかのボタンをおして、いろいろなレジストレーションを再現させてみましょう。



より深い理解のために

〔記憶されているレジストレーションの内容〕
レジストレーションメニューに記憶されている機能(音色、効果、リズムなど)は、レジストレーションメモリーに記憶させることができる機能の範囲とほぼ同じです。(19ページ参照)

- 記憶されている音色には、ボイスメニューの音色もあります。
- リズムのテンポは記憶されておらず、演奏する曲にあわせて自分でセットできるようになっています。
- オートベースコードはすべてフィンガードコードが記憶されています。シングルフィンガー やカスタム A.B.C. を使いたい時は、それらのボタンをおしてください。

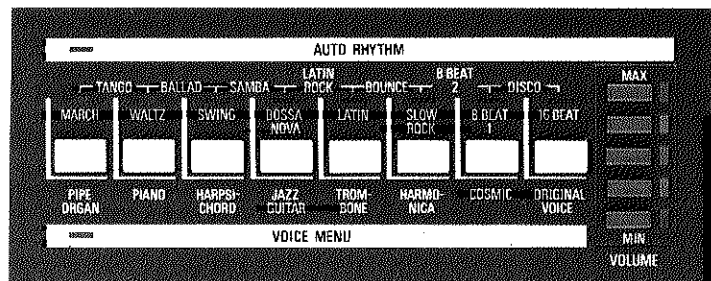
〔再現させたレジストレーションの変更〕
1～16のボタンをおして記憶されているレジストレーションを再現させたあと、パネルを操作すれば、レジストレーションを部分的に変更することができます。音色やリズムパターン、伴奏パターンなどを変えて、いろいろな曲を演奏してみましょう。

レジストレーションメニュー 1	No.	サウンドのイメージ	リズムパターン
	1	マーチ/ポルカ	マーチ
	2	パイプオルガン	8ビート1
	3	木管アンサンブル	マーチ
	4	ジャズオルガン	バラード
	5	ジャズコンボ 1	スイング
	6	ジャズコンボ 2	ボサノバ
	7	ビッグバンド 1	スイング
1	8	ビッグバンド 2	バラード

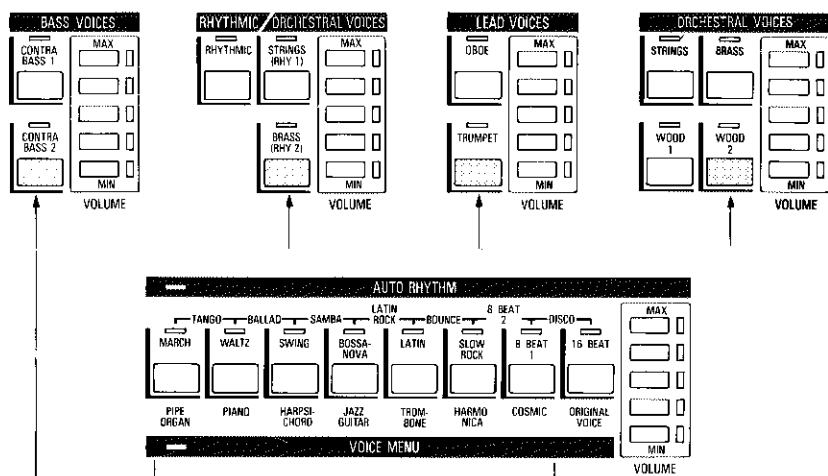
レジストレーションメニュー 2	No.	サウンドのイメージ	リズムパターン
	9	カントリー	マーチ
	10	ストリングアンサンブル	ワルツ
	11	ポップスアンサンブル 1	8ビート1
	12	ポップスアンサンブル 2	ラテンロック
	13	ポップスアンサンブル 3	サンバ
	14	フュージョン 1	16ビート
	15	フュージョン 2	ディスコ
2	16	フュージョン 3	バウンス

III-2-① ボイスメニュー(ME-15)

ME-15では、オートリズムの下に表示されている7つの音色を、各音色グループにあるグレーのボタンに移して使うことができます。

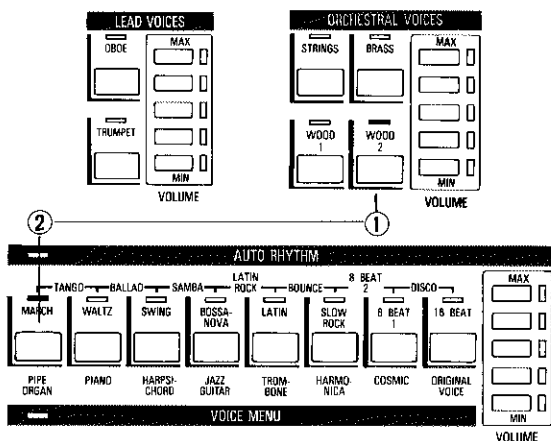


1 どの音色をどの音色グループに移すかをきめる。

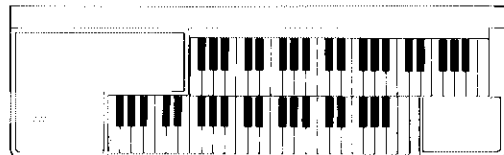


ボイスメニューの音色は、各音色グループのグレーのボタンに移して使います。ボイスメニューの7つの音色を、どの音色グループに移してもかまいません。

2 グレーのボタンをおしながら、ボイスメニューのボタンをおす。

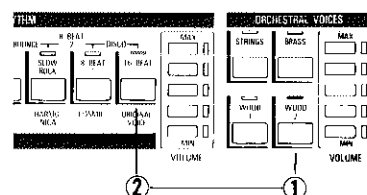


音色グループのグレーのボタンをおしつづけると、ボイスメニューのランプが点灯し、音色を移せる状態になります。グレーのボタンをおしたまま、ボイスメニューのボタン(パイプオルガン〜コスミック)をひとつおしてください。グレーのボタンのランプが点滅し、音色が移ったことを示します。ほかのグレーのボタンにも、同様の操作で音色を移してみましょう。



より深い理解のために

〔オリジナルボイス〕



グレーのボタンをおしながら、オリジナルボイスのボタンをおせば、移した音色をキャンセルし、パネルに表示されている音色にもどすことができます。

〔グレーのボタンに移した音色の確認〕

グレーのボタンをおすと、そのボタンに移したボイスメニュー音色のランプが点灯し、どの音色が移されているかを確認することができます。

なお、ボイスメニューの音色が移されていない場合は、オリジナルボイスのランプが点灯します。

〔ボイスメニューの音色をメモリーする使い方〕

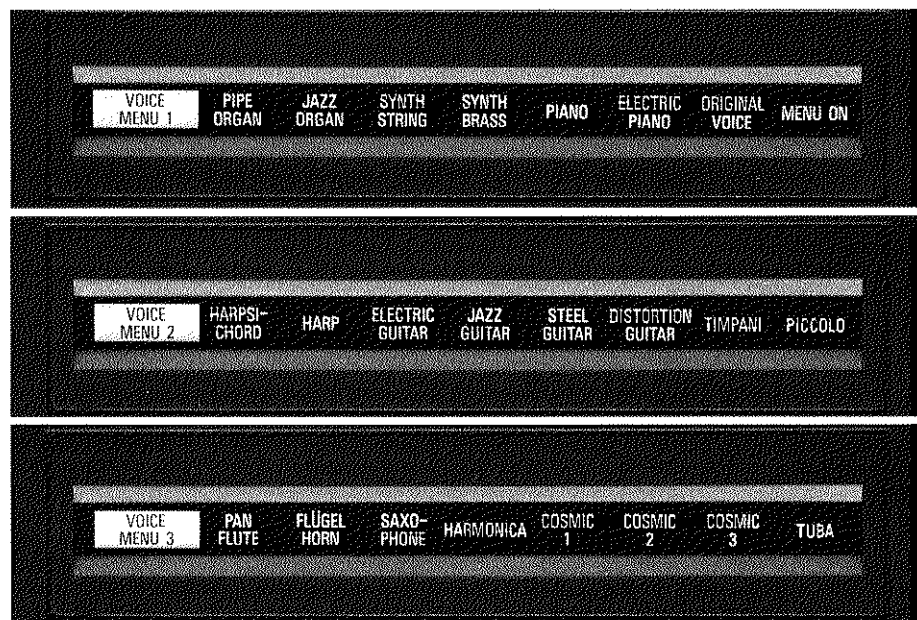
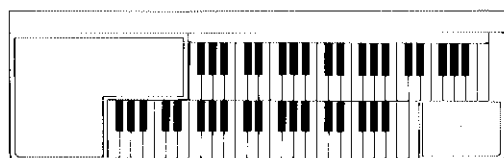
グレーのボタンに何の音色を移しているかという情報は、レジストレーションメモリー1〜5のボタンのそれぞれに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションを記憶させる時、いろいろなボイスメニューの音色を移してみましょう。レジストレーションメモリーのボタンをおし替えるだけで、グレーのボタンの音色が変わりますから、とても便利です。

〔ボイスメニューの使用にあたって〕

- 2つ以上のグレーのボタンに、同じ音色を移すこともできます。
- リードボイスとベースボイスに移した音色は、単音で得られます。
- ボイスメニューの音色は、移した音色グループによって感じが変わることがあります。
- ジャズギターをベースボイスに移して使えば、エレクトリックベースの音色が得られます。

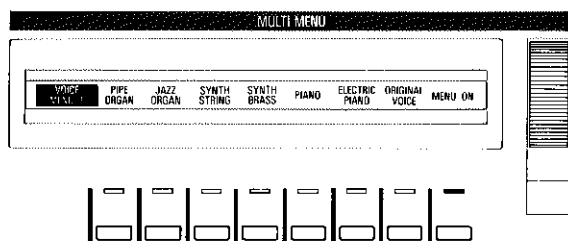
III-2-② ボイスメニュー (ME-55/ME-35)

ME-55/ME-35では、マルチメニューのなかにあるボイスメニューの22の音色を、各音色グループのグレーのボタンに移すことができます。



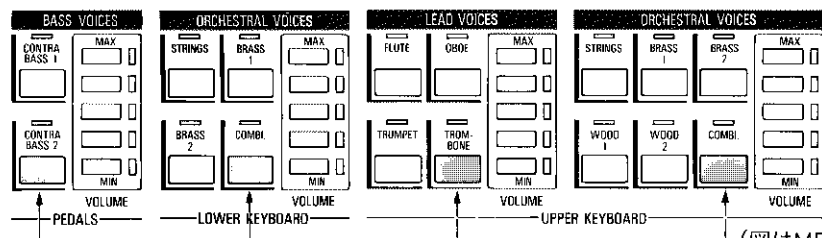
グレーのボタンに音色を移す操作

1 ボイスメニュー1のパネルをだし、メニューオンのボタンを入れる。

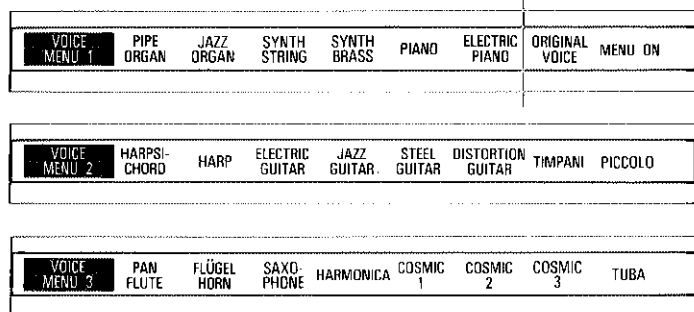


まず、マルチメニューのパネルをボイスメニュー1にして、右端にあるメニューオンのボタンを入れてください。このボタンが入っていないと、ボイスメニューの機能ははたきません。

2 どの音色をどの音色グループに移すかをきめる。



(図はME-55)



各音色グループにはグレーのボタンがひとつずつあり、ボイスメニューの音色はこれらのボタンに移して使います。ボイスメニューの22の音色を、どの音色グループに移すかは、自由に選ぶことができます。

より深い理解のために

〔各音色を移すのに適した音色グループ〕

ボイスメニューの22の音色は、どの音色グループにも移すことができますが、次のように移して使うと効果的です。

オーケストラルボイスに移すのに適した音色

- ボイスメニュー1の6つの音色(パイプオルガン～エレクトリックピアノ)

- ボイスメニュー2の左から6つの音色(ハープシコード～ディストーションギター)

リードボイスに移すのに適した音色

- ボイスメニュー2の右端のピッコロ

- ボイスメニュー3の左から7つの音色(パンフルート～コズミック3)

ベースボイスに移すのに適した音色

- ボイスメニュー2のティンパニ

- ボイスメニュー3のチューバ

- ボイスメニュー2のエレクトリックギターとジャズギターをベースボイスに移して使えば、エレクトリックベースの音色が得られます。

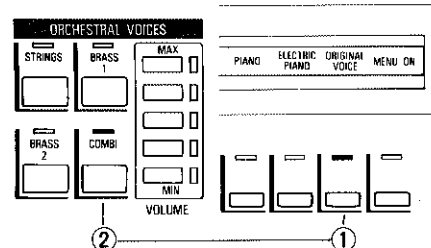
〔メニューオンのボタンについて〕

ボイスメニュー1の右端にあるメニューオンのボタンは、ボイスメニュー機能をON/OFFするはたらきをもっています。

ONになっている時: ボイスメニューの音色をグレーのボタンに移す操作が行えます。また、このボタンがONになっていれば、音色を移したグレーのボタンでは、ボイスメニューの音色が得られます。(電源を切った時点でメニューオンがONになっていれば、再び電源を入れた時、メニューオンはONになります。)

OFFになっている時: ボイスメニューの音色を移すことはできません。また、すべてのグレーのボタンでは、パネルに表示されている音色が得られます。(25ページ参照)

〔オリジナルボイス〕



オリジナルボイスのボタンをおしながら、グレーのボタンをおせば、移した音色をキャンセルし、パネルに表示されている音色にもどすことができます。この操作は、グレーのボタンに移した音色を、ひとつずつキャンセルしたい時に行ってください。(グレーのボタンに移した音色をすべてパネルの音色にもどしたい時は、メニューオンのボタンをOFFにしてください。)

〔グレーのボタンに移した音色の確認〕

グレーのボタンをおすと、そのボタンに移したボイスメニュー音色のランプが点灯し、どの音色が移されているかを確認することができます。なお、ボイスメニューの音色が移されていない場合は、オリジナルボイスのランプが点灯します。

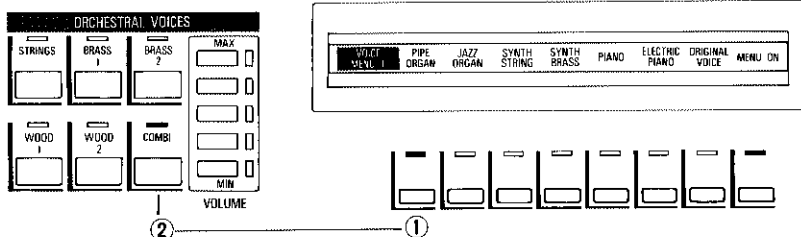
〔ボイスメニューの音色をメモリーする使い方〕

グレーのボタンに何の音色を移しているかという情報は、レジストレーションメモリー1~5のボタンのそれぞれに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションを記憶させる時、いろいろなボイスメニューの音色を移してみましょう。レジストレーションメモリーのボタンをおし替えるだけで、グレーのボタンの音色が変わりますから、とても便利です。

〔ボイスメニューの使用にあたって〕

- 2つ以上のグレーのボタンに、同じ音色を移すこともできます。
- リードボイスとベースボイスに移した音色は、単音で得られます。
- ボイスメニューの音色は、移した音色グループによって感じが変わることがあります。その場合、マルチメニューのユーザービブラートでビブラートのかかり具合を調整してください。
- グレーのボタンにどの音色を移したかという情報は、電源を切っても(またはメニューオンをOFFにしても)、最低1週間は記憶されています。

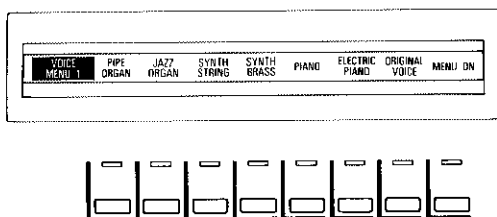
3 ボイスメニューの音色ボタンをおしながら、グレーのボタンをおす。



ボイスメニューの音色ボタンをひとつおしながら、グレーのボタンをおしてください。おしたグレーのボタンのランプが点滅し、音色が移ったことを示します。ほかのグレーのボタンにも、同様の操作で音色を移してみましょう。

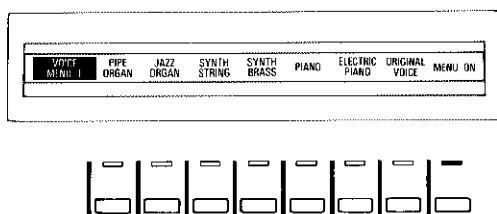
移した音色のキャンセルと再現

1 メニューオンのボタンをおしてランプを消す。



ボイスメニューの音色を使わない場合は、メニューオンのボタンを切ってください。各音色グループのグレーのボタンでは、パネルに表示されている音色が得られるようになります。ただし、グレーのボタンにどの音色を移したかという情報は、エレクトーンに記憶されています。

2 メニューオンのボタンを再び入れる。



再びボイスメニューの音色を使いたい場合は、メニューオンのボタンを入れてください。メニューオンのボタンを切る前に、グレーのボタンに移しておいたボイスメニューの音色が、再び得られるようになります。

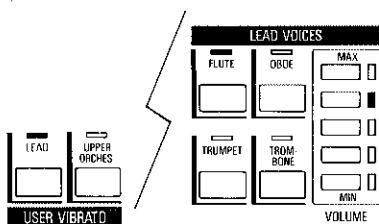
III-3 ユーザービブラート (ME-55/ME-35)

上鍵盤のリードボイスとオーケストラルボイスの音色には、あらかじめビブラート効果が組みこまれています。自分で効果のかかり具合をセットすることができます。

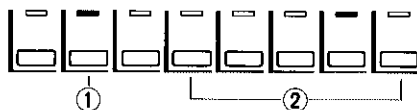
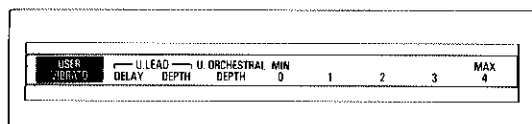


リードボイスのユーザービブラートのセット

- 1 パネルでリードボイスをセットし、ユーザービブラートのリードのボタンを入れる。(4、8ページ参照)

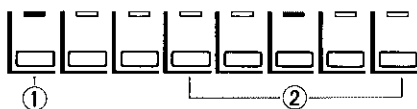
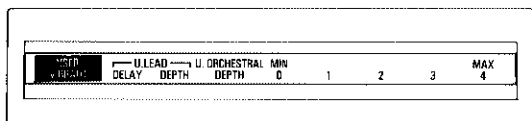


- 2 ビブラートのデプス(深さ)をセット。

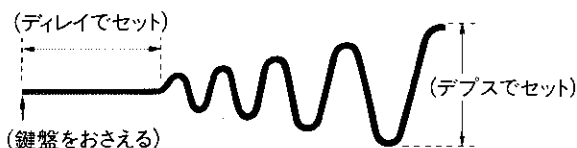


まず、マルチメニューでユーザービブラートのパネルをだし、左から2番目のデプスボタン①をおしてください。右側の0~4のランプがひとつ点灯しますが、これが現在セットされているビブラートのデプス(深さ)です。上鍵盤を弾いてリードボイスの音をだしながら、0~4のボタン②のひとつをおしてください。0を選ぶとビブラートはほとんどかかなくなり、4を選ぶとビブラートのデプス(深さ)は最大になります。

- 3 ビブラートのディレイ(遅れ時間)をセット。



次に、左端のディレイボタン①をおしてください。0~4のランプがひとつ点灯しますが、これが現在セットされているビブラートのディレイ(上鍵盤をおさえてからビブラートがかかるのはじめるまでの遅れ時間)です。上鍵盤を弾いてリードボイスの音をだしながら、0~4のボタンをひとつおしてください。0を選ぶとほとんど遅れ時間がなくなり、4を選ぶと遅れ時間は最長になります。



- 4 上鍵盤を弾くと、セットしたユーザービブラートがかかる。

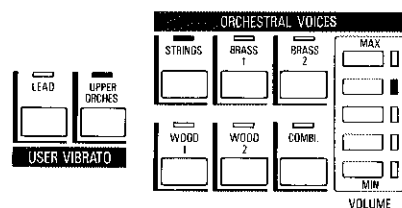
マルチメニューでセットしたユーザービブラートは記憶されますから、パネルのリードボタンを入れることで、いつでもセットしたユーザービブラートがかかります。



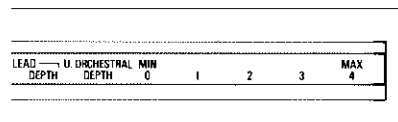
より深い理解のために

〔上鍵盤オーケストラルボイスのユーザービブラートのセット〕

- ①パネルで上鍵盤オーケストラルボイスをセットし、ユーザービブラートのアップパーオーケストラルボタンを入れる。



- ②マルチメニューでアップパーオーケストラルデプスのボタンを入れる。そのあと、音をだしながら、0~4のボタンでビブラートのデプス(深さ)をセット。



- ③パネルのアップパーオーケストラルボタンを入れることで、いつでもセットしたユーザービブラート(デプスのみ)がかかります。

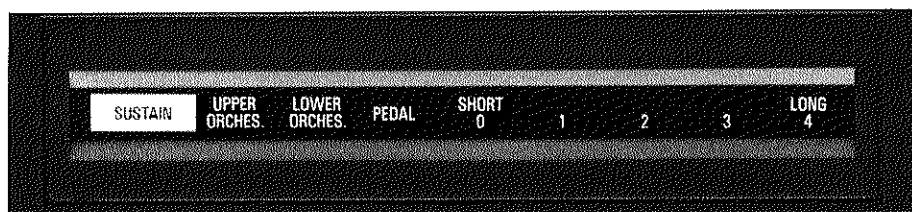
〔ユーザービブラートをメモリーする使い方〕
マルチメニューでセットしたビブラートのかかり具合は、レジストレーションメモリー1~5のボタンのそれぞれに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションを記憶させる時、マルチメニューでビブラートのセッティングを変えてみましょう。レジストレーションメモリーのボタンをおし替えるだけで、ビブラートのかかり具合が変わりますから、とても便利です。

〔ユーザービブラートの情報の保護〕

マルチメニューでセットしたユーザービブラートの情報は、電源をOFF(またはパネルのユーザービブラートをOFF)にしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

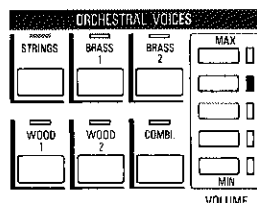
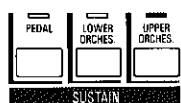
III-4 サステイン(ME-55/ME-35)

ME-55/ME-35では、サステインの長さを各鍵盤ごとに自分でセットすることができます。



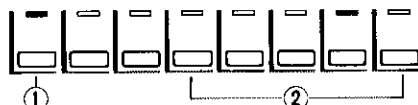
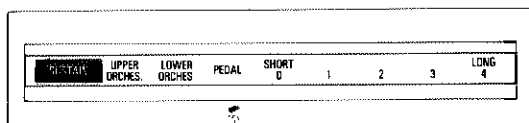
上鍵盤オーケストラルボイスのサステインのセット

- 1 パネルで上鍵盤オーケストラルボイスをセットし、サステインのアップパーオーケストラルのボタンを入れる。(4、8ページ参照)

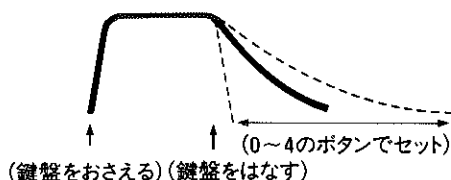


(図はME-55)

- 2 アッパーオーケストラルのボタンを入れ、余韻の長さをセット。

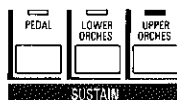


まず、マルチメニューでサステインのパネルをだし、左端のアップパーオーケストラルボタン①をおしてください。右側の0~4のランプがひとつ点灯しますが、これが現在セットされる余韻の長さです。上鍵盤を弾いてオーケストラルボイスの音をだしながら(鍵盤をおさえて、すぐにはなす)、0~4のボタン②のひとつをおしてください。0を選ぶと余韻はほとんどつかなくなり、4を選ぶと余韻の長さは最長になります。



- 3 上鍵盤を弾くと、セットしたサステインがかかります。

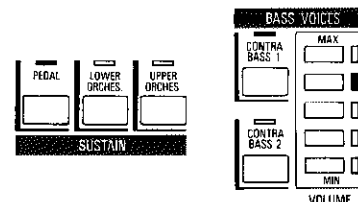
マルチメニューでセットした余韻の長さは記憶されますから、パネルのアップパーオーケストラルボタンを入れることで、いつでもセットしたサステインがかかります。



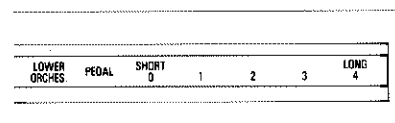
より深い理解のために

[ペダルボイスと下鍵盤オーケストラルボイスのサステインのセット]

- ① パネルでベースボイスをセットし、サステインのペダルボタンを入れる。



- ② マルチメニューのペダルボタンを入れ、0~4のボタンで余韻の長さをセットする。



- ③ パネルのペダルボタンを入れることで、いつでもセットしたサステインがかかります。下鍵盤オーケストラルボイスのサステインも、同様の操作でセットすることができます。

[サステインをメモリーする使い方]

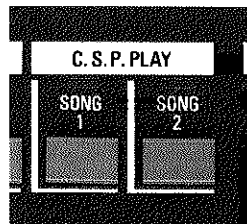
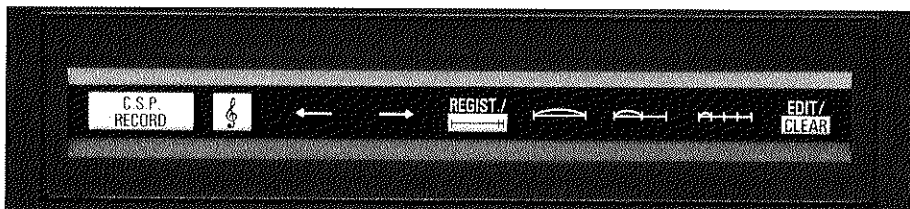
マルチメニューでセットした余韻の長さは、レジストレーションメモリー1~5のボタンそれぞれに記憶させることができます。これを利用して、レジストレーションを記憶させる時、マルチメニューで余韻の長さを変えてみましょう。レジストレーションメモリーのボタンをおし替えるだけで、余韻の長さが変わりますから、とても便利です。

[サステインの情報の保護]

マルチメニューでセットしたサステインの情報は、電源をOFF(またはパネルのサステインをOFF)にしたままでも、最低1週間は消えずに記憶されています。

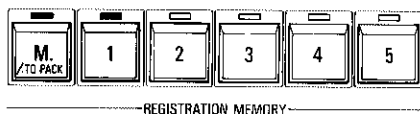
III-5 コードシーケンスプログラマー (C.S.P.)(ME-55/ME-35)

演奏する曲の伴奏(コード進行の再生順序)を、まえもってプログラムしておくことができる機能です。コード進行のほか、レジストレーションやリズムのフィルインなどもプログラムすることができます。



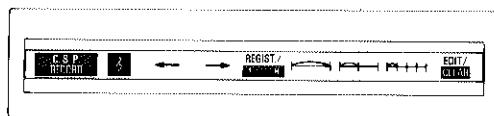
プログラムする操作(レコード)

- 1 演奏で使う音色などをレジストレーションメモリーに記憶させ、曲の最初に使うレジストレーションをひとつ選ぶ。(19ページ参照)



プログラムをはじめる前に、演奏する曲にふさわしい音色、リズムパターンなどをセットし、レジストレーションメモリー1~5に記憶させてください。そのあと、レジストレーションメモリー1~5のボタンをひとつおし、曲の最初で使うレジストレーションを呼びだしておきます。

- 2 (♩)のボタンをおしながら、エディット/クリアーのボタンをおす。



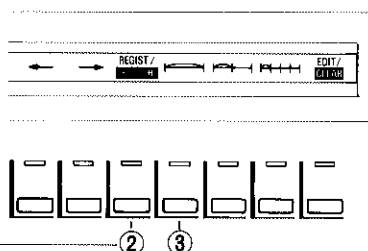
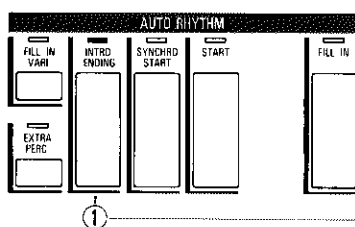
2つのソングボタンのランプが点滅をはじめます。

- 3 点滅しているソングボタンのひとつをおす。



ランプが点滅している間に、ソングボタンのどちらかをおしてください。おしたボタンのランプが点灯になり、プログラムできる状態になったことを示します。(この時、おしたソングボタンにプログラムされていた情報は、すべて消えてしまいますので、ご注意ください。)

- 4 必要に応じて、リズムのイントロをプログラムする。



曲の先頭にリズムのイントロをプログラムしたい場合は、まず、イントロ/エンディングのスイッチをおしながら、レジストレーションボタン②をおします。そのあと、(←)ボタンを1回おして、イントロの長さ(1小節)をプログラムしてください。

より深い理解のために

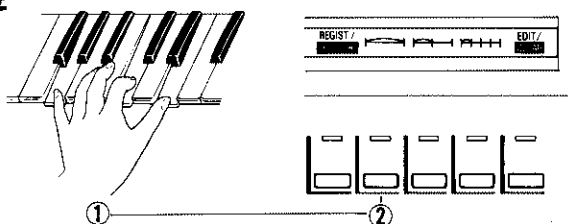
【レジストレーションメモリーとC.S.P.の関係】

- レジストレーションメモリーの1~5のボタンに記憶させた情報は、レコード操作に入った時点で、自動的にプログラムされます。また、その時何番のボタンがONになっているかという情報もプログラムされます。
- プログラムの途中で、1~5のボタンをおし替えてレジストレーションボタンをおせば、何番のボタンに切り替えたかという情報がプログラムされます。パネルで変更したレジストレーションはプログラムされません。
- 1~5のボタンの情報は、ソングボタンごとにプログラムされますから、ソング1と2で異なった5種類のレジストレーションをプログラムすることができます。
- レジストレーションメモリーに記憶させた情報は、そのままC.S.P.にプログラムされますが、オートベースコードだけはプログラムされないようになっています。
- リズムのテンポは、1~5のボタンのうち、レコードの操作に入ったときにONになっているボタンにメモリーされているテンポだけがプログラムされます。それ以外のボタンにメモリーされているテンポは無視されます。

【タセットのある曲のプログラム】

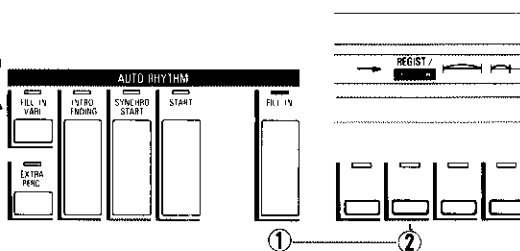
曲の最初にタセット(メロディーを弾かず伴奏だけ演奏する部分)がある場合は、リズムのイントロを1小節プログラムすると、再生した時に演奏しやすくなります。また、イントロをプログラムする代わりに、(←)ボタンだけを1回おせば、曲の最初に伴奏のない小節を入れることができます。この場合、C.S.P.プレイモードでイントロカウントをONにしてから再生をスタートさせてください。

5 伴奏(コード進行)をプログラムする。



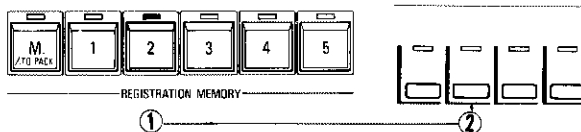
下鍵盤でコード(和音)をおさえながら、拍長ボタン(→)のひとつをおすと、コードがプログラムされます。楽譜のコードネームをみながら、曲の最初から順番にコードをプログラムしていきましょう。なお、下鍵盤でコードを弾く場合、オートベースコードのシングルフィンガー、フィンガードコードのどちらを使って弾いてもかまいません。

6 必要に応じて、リズムのフィルインをプログラムする。



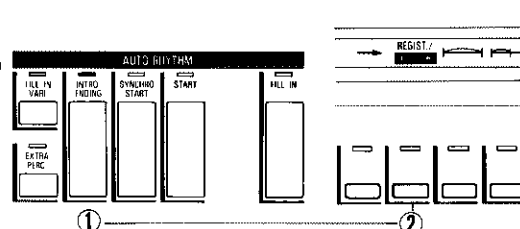
プログラムの途中で、リズムのフィルインを入れたい場合は、フィルインのスイッチ①をおしながら、レジストレーションボタン②をおします。フィルインをプログラムしたら、コードのプログラムにもどってください。

7 必要に応じて、レジストレーションメモリーをプログラムする。



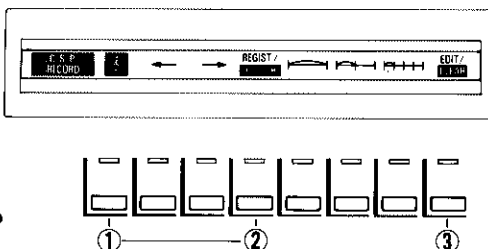
プログラムの途中で、レジストレーションを切り替えたい場合は、レジストレーションメモリーのボタン①をおし替え、レジストレーションボタン②をおしてください。おし替えたボタンの番号がプログラムされます。

8 必要に応じて、リズムのエンディングをプログラムする。



曲のおわりにリズムのエンディングを入れたい場合は、最後から2小節目の頭で、イントロ/エンディングのスイッチ①をおしながら、レジストレーションボタン②をおします。そのあと必ず、2小節目のコードをプログラムしてください。

9 プログラムがおわったら、(♩)ボタンをおしながら、エンドボタン②をおす。そのあと、エディット/クリアーボタン③を切る。



曲の最後までプログラムしたら、(♩)ボタンをおしながら(→)ボタン②をおして、終止記号をプログラムしてください。そのあと、エディット/クリアーボタン③をおしてランプを消せば、プログラムした伴奏を再生できるようになります。(再生のしかたは、30ページ参照)

より深い理解のために

【コードプログラムとオートベースコード】

C.S.P.では、コード(和音伴奏とベース伴奏)をプログラムすることができますが、そのコードの入力方法は、レコードの操作を開始する時にオートベースコードで選ぶことができます。シングルフィンガーまたはフィンガードコードのいずれかを選び、それぞれに応じた弾き方でコードをプログラムしてください。(15・17ページ参照)
なお、オートベースコードをOFFにしている時とカスタムA.B.C.を選んでいる時は、フィンガードコードを選んでいる場合と同じになります。

【プログラムの容量】

C.S.P.のプログラム容量は、ステップ数(拍長ボタン、レジストレーションボタンをおした数)でカウントされ、ソングボタンひとつにつき、162ステップまでプログラムすることができます。通常、1小節に2つ以上のコードをプログラムしたり、フィルインなどを入れたりしますから、約70~100小節ぐらいのプログラム容量になります。
なお、容量いっぱいまでプログラムすると、信号音が3回鳴り、それ以上プログラムできないことを示します。

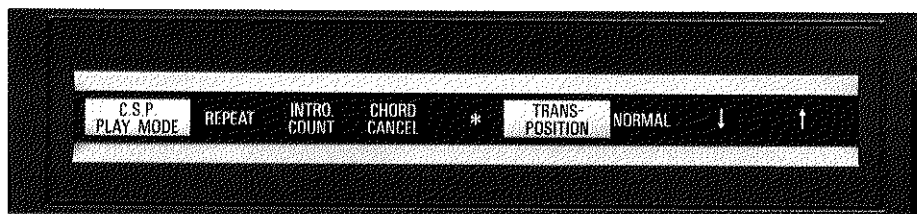
【プログラムした情報の保存と保護】

RAMバック: オプションのRAMバックをエレクトンに差しこみ、トゥーパックの操作をすれば、ソングボタン1と2にプログラムした情報をRAMバックに移すことができます。(21ページ参照)
カセット: ソングボタン1と2にプログラムした情報は、カセットテープに移すこともできます。(33ページ参照)
本体バックアップ: ソングボタン1と2にプログラムした情報は、電源をOFFにしたままでも、最低1週間は本体に記憶されています。

【プログラムする時の注意】

- ソングボタンがONになっていると、レコードの操作(またはエディットの操作)に入ることできません。伴奏を新しくプログラムする場合は、ソングボタンを2つともOFFにしてください。
- コードのプログラムでは、必ず下鍵盤をおさえながら拍長ボタンをおしてください。また、フィルイン、イントロ/エンディングのプログラムでは、それぞれのスイッチをおしながらレジストレーションボタンをおしてください。
- 下鍵盤でコードをおさえずに拍長ボタンだけをおすと、和音とベース伴奏のない小節がプログラムされます。イントロをプログラムしたあとや、リズムだけの小節をプログラムしたい時にこの操作を行ってください。
- フィルイン、イントロ/エンディングとレジストレーションメモリーの切り替えを連続してプログラムすることはできません。同じ位置にプログラムしたい場合は、両方を同時にセットし一度にプログラムしてください。
- レコードの操作を終了させる前であれば、エディットの操作をしている時と同じように、プログラムした情報を訂正することができます(31ページ参照)。ただしこの場合、レコードの操作を終了させる前に、必ず曲の最後に終止記号をプログラムしてください。

プログラムした伴奏を再生させれば、上鍵盤でメロディーを弾くだけで、3つの鍵盤を弾いている時とおなじ演奏が楽しめます。また、再生する時の条件をマルチメニューのC.S.P.プレイモードで選ぶことができます。



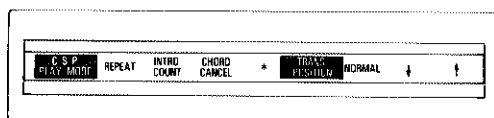
再生させる操作(プレイ)

1 ソングボタンを入れる。

再生したいボタンをひとつ選んでおしてください。(レコードの操作、またはエディットの操作を終了させた時点では、ソングボタンが入ったままになっていますから、そのまま再生をスタートさせることができます。)



2 必要に応じて、プレイモードのボタンを入れる。



C.S.P.プレイモードには3つのボタンがあり、それぞれのはたらきは次のとおりです。必要に応じて、入れてください。

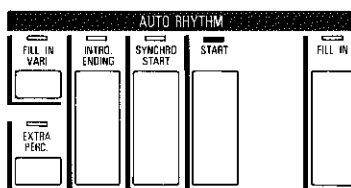
リピート: このボタンを入れておくと、一度再生がおわっても自動的に曲の先頭までもどり、再生がくり返されます。

イントロカウント: このボタンを入れておくと、再生がスタートする前に、1小節のイントロカウント(メトロノームの音)がでてきます。

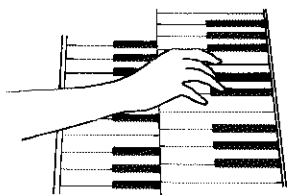
コードキャンセル: このボタンを入れておくと、コード(和音伴奏とベース伴奏)だけが再生されないようになります。

3 リズムをスタートさせる。

まず、テンポのつまみで再生の速さをセットします。それから、スタートのスイッチをおしてください。プログラムした伴奏がスタートします。(イントロカウントを入れた場合は、メトロノームの音が1小節鳴ったあとで再生がスタートします。)



4 再生される伴奏にあわせて、メロディーを弾いてみましょう。



下鍵盤の和音伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏が自動的に再生されますから、それにあわせて上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。フィルイン、イントロ/エンディングをプログラムした場合、およびレジストレーションメモリーの切り替えをプログラムした場合は、それらも再生されます。

再生が終わると、リズムが自動的にストップし、ソングボタンのランプも消えます。(リピートを入れておいた場合は、曲の最初にもどり、再生がくり返されます。)

より深い理解のために

【コードキャンセルの効果的な使い方】

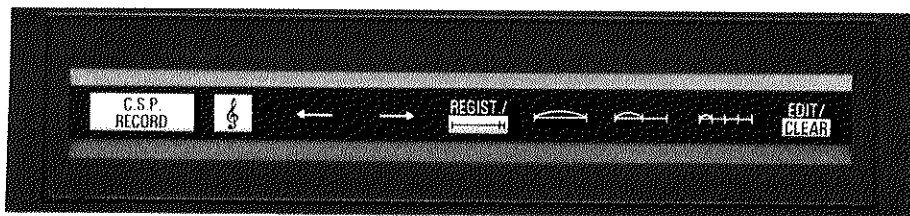
再生をスタートさせる前に、コードキャンセルのボタンをONにしておくと、伴奏の再生だけをキャンセルすることができます。この機能は次のように使うと効果的です。

- ①途中で切り替える音色やリズムパターン、1奏パターンをレジストレーションメモリーに記憶させておきます。
- ②コード進行と一緒に、リズムのフィルイン、イントロ/エンディング、レジストレーションメモリーの切り替えをプログラムします。
- ③コードキャンセルをONにして、再生をスタートさせ、伴奏とメロディーを弾いてください。パネルを操作しなくても、フィルイン、イントロ/エンディングがONになり、レジストレーションも自動的に切り替わります。

【再生する時の注意】

- C.S.P.を再生している間は、下鍵盤およびペダル鍵盤で弾いた音は発音しないようになっています。下鍵盤とペダル鍵盤で伴奏を弾きたい場合は、コードキャンセルのボタンをONにしてください。
- C.S.P.を再生している途中で、パネルを操作して音色やリズムなどを変えることもできます。ただし、そのあとにレジストレーションメモリーの切り替えやフィルインなどをプログラムしたところがあると、パネルで変更したセッティングはその時点でキャンセルされます。
- C.S.P.を再生するには、必ずリズムをスタートさせる必要があります。再生時にリズムの音をだしたくない場合は、リズムのボリュームをOFFにしたレジストレーションをプログラムしてください。
- ソングボタンをONにすると、その時レジストレーションメモリー1~5のボタンに記憶されている情報は消え、ソングボタンにプログラムされているレジストレーションメモリーの情報にすべて入れ替わります。情報を消したくない場合は、あらかじめRAMパックがカセットテープに情報を移しておきましょう。(21、33ページ参照)

ソングボタンにいったんプログラムしたあとは、エディットの操作によって、内容を確認しながら、プログラムの内容を部分的に変更することができます。



プログラムの変更(エディット)

1 エディット/クリアーのボタンをおし、ソングボタンをひとつおす。



エディット/クリアーのボタンをおすと、2つのソングボタンが点滅をはじめます。点滅している間に、ソングボタンのどちらかをおしてください。ソングボタンをおすと、曲の先頭にプログラムされているレジストレーションメモリのボタンが点灯し、パネルにはそのレジストレーションが再現されます。マルチメニューでは、1小節目にプログラムした情報に応じて拍長ボタンまたはレジストレーションボタンが点灯します。

2 (→)ボタンをおして、情報をひとつずつ確認する。



(→)ボタンをおすと、情報の位置を示す指針(これをデータポインタと呼びます)がひとつずつ進み、プログラムした情報が次のように再現されます。前にもどきたい時は(←)ボタンをおしてください。

コードの確認: プログラムしたコードが下鍵盤から発音し、拍長ボタンのひとつが点灯する。コードの種類は耳で、長さは拍長ボタンで確認する。

フィルイン、イントロ/エンディングの確認: プログラムした位置でレジストレーションのランプが点灯し、フィルインまたはイントロ/エンディングのランプが点灯する。

レジストレーションメモリの切り替えの確認: プログラムした位置でレジストレーションボタンが点灯し、切り替えたレジストレーションがパネルに再現される。

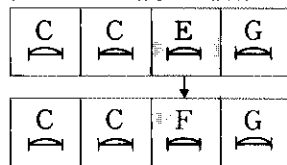
3 プログラムの内容を変更する。

変更したい情報、追加したい情報があったら、次の方法でプログラムの内容を変えてください。

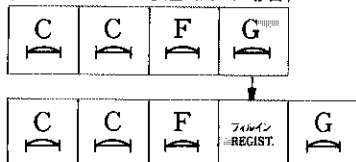
コードの種類、コードの長さ、レジストレーションメモリの番号の変更: データポインタを変更したい情報の位置にして、正しい情報をプログラムしなおす。プログラムする方法は、レコードの操作と同じ。

フィルイン、イントロ/エンディング、レジストレーションメモリの追加: データポインタを追加したい位置の次(右の例ではGが発音する位置)に進め、追加したい情報をプログラムする。なお、コードを途中で追加することはできません。

(例: EをFに変更する場合)



(例: フィルインを追加する場合)



4 確認と変更が終わったら、エディット/クリアーを切る。

エディット/クリアーをOFFにしても、ソングボタンは点灯したままになっていますから、そのままリズムをスタートさせれば、エディットした伴奏を再生させることができます。

より深い理解のために

〔データポインタの移動方法〕

情報の位置を示すデータポインタは、次の4通りの方法で移動させることができます。

(→)	ひとつずつ進める。
(←)	ひとつずつもどす。
(♪)+(→)	一度に最後まで進める。
(♪)+(←)	一度に最初までもどす。

〔リズムをスタートさせての確認〕

(→)(←)ボタンをおす替わりに、リズムをスタートさせることでも、情報の確認ができます。この場合、再生した時と同じようにコードやフィルインが発音します。(ただし、アルペジオコードとベース伴奏の音は発音しません。)確認の途中で、情報を変更したいところがあったら、リズムをストップさせ、(←)ボタンでデータポイントをもどし、プログラムの内容を変更(または追加)してください。

〔レジストレーションメモリの内容の変更〕

レジストレーションメモリー1~5の内容は、レコードの操作をした時に記憶されていたものが、ソングボタンごとにプログラムされています。この内容を変更したい場合は、エディットの操作をしている時、レジストレーションメモリー1~5のボタンに新しいレジストレーションをメモリーしなおしてください。

〔コードの追加と消去〕

曲の途中で新たにコードを追加することはできませんが、一番最後の情報の後にコードを追加することはできます。また、曲の途中に余分なコードがプログラムされていて、それを消去したい場合は、次のような方法で訂正することができます。

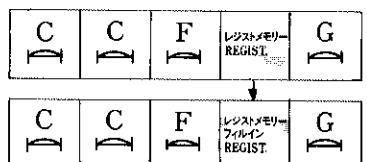
(例)Eを消去する場合



〔フィルインやレジストレーションメモリの追加について〕

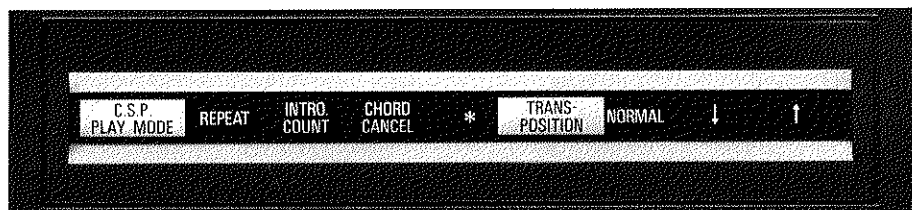
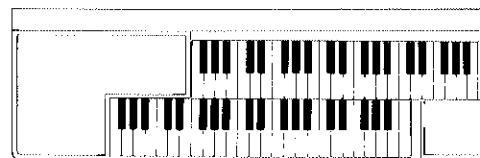
レジストレーションメモリーの切り替えがプログラムされている位置に、フィルインやエンディングを追加(またはフィルイン、エンディングの位置に、レジストレーションメモリーを追加)したい場合は、レジストレーションメモリーの切り替えとフィルインなどを同時にセットし、プログラムしなおしてください。

(例)フィルインを追加する場合

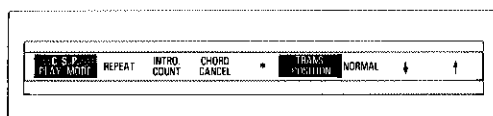


III-6 トランスポジション (ME-55/ME-35)

エレクトーン全体のキー(調子)を上下半オクターブの範囲で変えることができ、転調した演奏が簡単に楽しめます。



1 (↓)ボタンまたは(↑)ボタンをおす。



まず、マルチメニューでトランスポジションのパネル(C.S.P.プレイモードのパネルと同じ面にあります)をだしてください。何も操作しない時はノーマルボタンのランプが点灯し、エレクトーン本来のキー(調子)になっていることを示します。

ノーマルのキー(調子)をCとした場合、(↓)ボタンまたは(↑)ボタンをおすことで変わるキーは、次のとおりです。必要な回数だけボタンをおしてください。(↑↓とも最高6ステップ)

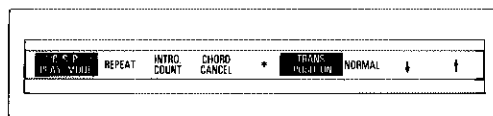
(↓)ボタン(キーを下げる)：

↓×6	↓×5	↓×4	↓×3	↓×2	↓×1	ノーマル
G $\flat$ (F $\sharp$)	G	A $\flat$ (G $\sharp$)	A	B $\flat$ (A $\sharp$)	B	C

(↑)ボタン(キーを上げる)：

ノーマル	↑×1	↑×2	↑×3	↑×4	↑×5	↑×6
C	C $\sharp$ (D $\flat$)	D	D $\sharp$ (E $\flat$)	E	F	F $\sharp$ (G $\flat$)

2 ノーマルボタンをおして、本来のキー(調子)にもどす。



エレクトーン本来のキー(C=C)にもどしたい時は、ノーマルボタンをおしてください。また、電源をいったん切ることでも、本来のキーにもどります。

より深い理解のために

(トランスポジションを使う時の注意)

- (↓)ボタンまたは(↑)ボタンをおした時、おしたボタンのランプが点灯するとは限りません。セットしているキーがノーマルより高い場合は、(↓)ボタンをおしてキーを半音下げても(↑)ボタンのランプが点灯したままになっています。また、セットしているキーがノーマルより低い場合は、(↓)ボタンのランプがつねに点灯しています。
- トランスポジションのセットは、レジストレーションメモリーには記憶されないようになっています。曲の途中でキーを変えた場合は、そのつどトランスポジションのボタンをおしてください。
- C.S.P.のコードをプログラムしている途中で、トランスポジションによってキーを変えても、実際にプログラムされるコードはノーマルのキーの時と変わりません。ただし、C.S.P.を再生している時、トランスポジションでキーを変えることはできます。

III-7 カセット (ME-55/ME-35)

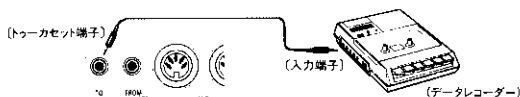
エレクトーンに記憶させたレジストレーションメモリーとC.S.P.の情報をカセットテープに移すことができ、移した情報はいつでもエレクトーンにもどすことができます。



カセットテープに情報を移す操作(トゥーカセット)

1 レジストレーションメモリー、およびC.S.P.に情報を記憶させる。(19、28ページ参照)

2 データレコーダーをエレクトーンに接続する。



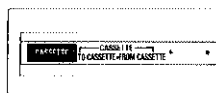
プラグの接続コードを使って、エレクトーンの背面にあるトゥーカセット端子と、データレコーダーの入力端子を接続してください。データレコーダーの替わりに一般のカセットレコーダーも使用できますが、なるべくデータ記録専用のデータレコーダーをお使いください。

3 カセットテープをセットし、データレコーダーを録音状態にする。

データレコーダーのカウンターをみて、録音を開始した時の数字をメモしておきましょう。

4 トゥーカセットのボタンをおす。

情報の録音(エレクトーンからの書きこみ)が開始され、録音中はトゥーカセットのランプが点灯しつづけます。録音が終わるとランプが点滅してから消えます。ランプが消えたことを確認してから、データレコーダーをストップさせてください。

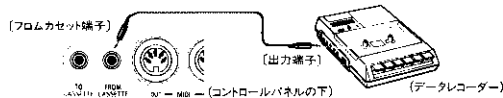


カセットテープから情報をもどす操作(フロムカセット)

1 データレコーダーにカセットテープをセットする。

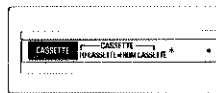
録音したカセットテープをセットし、録音を開始した位置まで巻きもどしてください。再生のボリュームは、中央よりやや高めにセットします。

2 データレコーダーをエレクトーンに接続する。



エレクトーンのプロムカセット端子と、データレコーダーの出力端子を接続してください。

3 フロムカセットのボタンをおす。



4 データレコーダーを再生状態にする。

情報の再生(カセットテープからの読みとり)が開始され、再生している間はフロムカセットのランプが点灯しつづけます。再生が終わるとランプが点滅してから消えます。ランプが消えたことを確認してから、データレコーダーをストップさせてください。

より深い理解のために

【情報が移らない場合には】

エレクトーンにカセットテープの情報が正常に移らない場合(信号音が3回鳴り、フロムカセットのランプが点灯したままになります)、またはカセットテープに情報が正常に移らない場合(トゥーカセットの操作の後、フロムカセットの操作を行うことで確認できます)は、次のチェック項目を確認し、操作をやりなおしてください。

① 接続コードがエレクトーンとレコーダーにしっかりと差しこまれていますか？

② 接続する端子や操作手順はまちがえていませんか？

情報を録音したあと、接続コードをはずし、テープを巻きもどして再生状態にしてください。
*ピー*という音がでた場合は情報が録音されています。

③ レコーダーの再生ボリュームは適切ですか？
10段階目盛りのボリュームの場合、6~8ぐらいにセットしてください。ボリュームが小さすぎたり大きすぎたりすると、情報が再生されません。

④ レコーダーのヘッドが汚れていませんか？

⑤ カセットテープは適切ですか？

- ・データ記録専用テープ、またはノーマル・ローノイズタイプのオーディオ用テープ(30分テープまたは40分テープ)をお使いください。
- ・なるべく新品のテープをお使いください。
- ・テープの折り目、継ぎ目、シワなどが無いことを確認してください。(テープの先頭を使う場合は、少し空送りしてください。)

⑥ レコーダーは適切ですか？

一般のオーディオカセットレコーダーは、その特性によって使えないものや記録にくいものがあります。なるべくデータ記録専用のデータレコーダーをお使いください。(データレコーダーによってはマッチングの悪いものもあります。)

【カセット機能を使う場合の注意】

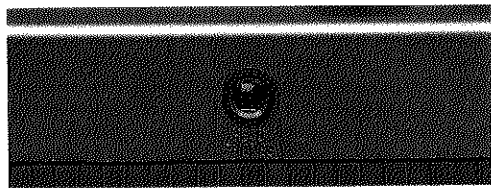
● 情報の録音、および再生に要する時間は、約60秒間です。

● 情報の録音、および再生を行っている間は、パネルのランプがすべて消え、鍵盤を弾いても音はでません。

● カセットテープの情報を再生すると、それまでエレクトーンに記憶されていたレジストレーションメモリーとC.S.P.の情報が消え、カセットテープの情報に入れ替わります。

● カセットテープに移した情報をエレクトーンにもどす時は、同一モデルのエレクトーンをお使いください。

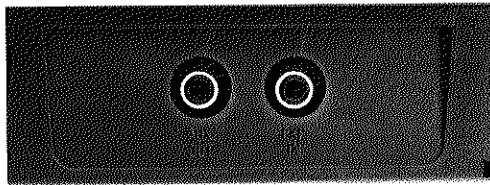
付属端子



(前面)

●HEADPHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプでもご使用になれます(でてくる音はモノラルです)。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[出力インピーダンス60Ω]



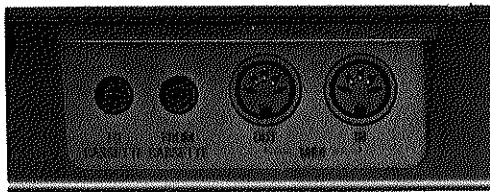
(背面右)

●AUX. OUT(ライン出力端子)

外部アンプ機器などと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたい時に使う端子です。また、テープデッキの〔LINE-IN〕端子と接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[出力インピーダンス470Ω]

●EXP. IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムマシンの出力端子と接続し、それらの音をエレクトーンのスピーカーからだしたい時に使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールすることができます。[入力インピーダンスME-55: 3.3KΩ、ME-35/ME-15: 10KΩ]



(背面左)

●MIDI OUT/IN(ミディ端子)

MIDI(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)は、デジタル電子楽器の世界統一規格です。MIDI対応のシンセサイザー、リズムマシン、パソコンなどと接続すれば、いろいろな楽しみ方ができます。

●TO CASSETTE/FROM CASSETTE(データレコーダー接続用端子)[ME-55/ME-35]

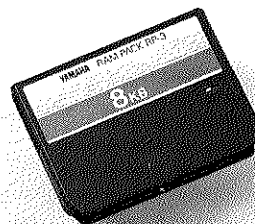
エレクトーンの情報 cassette テープに移したり、cassette テープの情報をエレクトーンにもどす時に、データレコーダーなどと接続する端子です。

オプション



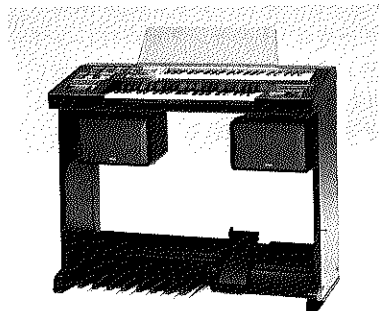
●エレクトーン用ステレオヘッドホン[YHE-50S] ¥5,300

長時間使用しても疲れにくい軽量設計のヘッドホン。新しいマグネットの採用によって、ダイナミックで迫力ある音を得られます。



●RAMパック[RP-3] ¥3,500

データの書きこみと読みだしが可能なRAM(ランダム・アクセス・メモリー)パック。エレクトーンのリジストレーションメモリー、C.S.P.の情報をメモリーさせ、保存しておくことができます。



●キーボードアンプ[KA-10] ¥37,000(1台)

コンパクトでありながら、出力30Wをはこるキーボード専用アンプ/スピーカー。よりパワフルなサウンドを楽しむことができます。接続方法は、エレクトーンの〔AUX. OUT〕端子とKA-10の〔INPUT〕端子を、接続コードで結ぶだけ。さらに、エレクトーンの〔MIDI OUT〕端子とKA-10の〔REMOTE IN〕端子を接続すれば、エレクトーンの電源スイッチでKA-10の電源も一緒にON/OFFすることができます。また、本体下のスチールレールに取り付けるための専用アタッチメントも用意しています。

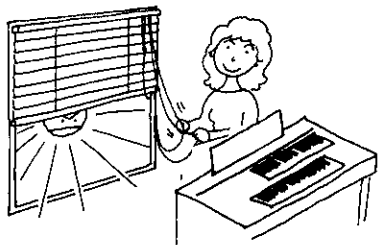
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所へは充分な配慮をしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適切な音量を心がけるとともに、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

すえ なが あん ぜん 末永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水でうすめた台所用中性洗剤にひたした布をよく絞って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。(付属のカバーをお使いください。)



電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子・譜面板などの取扱いでは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

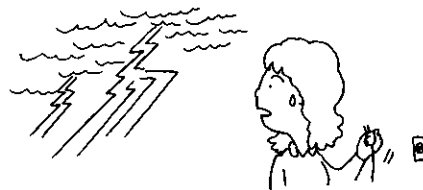
外部アンプ機器等を接続する場合、34ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおい煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

RAMパックの取り扱いと保管について

RAMパックには、LSIなどの電子部品が使用されていますので、その取り扱いや保管では次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差し込み口の金属部を堅いものでこすったりして、キズをつけないようにしてください。
- 内部に水やホコリが入らないように注意してください。
- 保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。
- 持ち運ぶ際は、パックの情報が衣類などの静電気によって消えてしまうことがありますので、必ず専用のケースをお使いください。

エレクトーン教室のご案内

お子さまに正しい音楽教育をとお考えの方や、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいという方のために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。

●幼児科

4～5歳児を対象にした音楽教室。「きく・うたう・ひく・つくる」という体験を通じて、音楽の基礎を楽しく自然に身につけます。母親同伴・週1回のグループレッスン・期間2ヵ年。

●エレクトーンスクール(児童科)

小学生を対象にしたエレクトーン教室です。音楽の導入に適したエレクトーンのレッスンを通じて、正しい音楽能力と豊かな創造力を養います。週1回のグループレッスン・期間4ヵ年。

●ジュニア科エレクトーンコース

幼児科を修了したお子さまを対象にしたコース。それまでに培われた音楽の基礎を土台に、エレクトーンの演奏力や表現力を学びます。週1回のグループレッスン・期間4ヵ年。

●メイトコース

中学生以上の方を対象にしたエレクトーン教室。はじめて鍵盤にふれる方でも、エレクトーンの演奏力と音楽力を楽しみながら身につけることができます。週1回のグループレッスン。

また、ピアノやエレクトーンの実験に応じて、スタディオコース、マスターコースも選べます。

●ハーモニーパーク

音楽とエレクトーンを楽しみたい16歳以上の方を対象にしたメンバー制の音楽サロン。好きな時に、好きな曲でレッスンを受けることができるセミ・フリータイム制です。

●エレクトーンハウス

エレクトーンのレッスンやご購入など、お客さまのさまざまなご要望にお応えするエレクトーンの専門店。気軽にエレクトーンを弾いてみたい、教室に通うまえにエレクトーンを習ってみたいという方のために、チケット制フリータイムのイニシャルレッスン(個人レッスン)も実施しています。

エレクトーンのパブリケーション

ここに紹介した出版物のほかにも、さまざまな曲集が用意されています。くわしくはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャズ、ボサノバ、ニューミュージックなど、ジャンル別にポピュラー音楽を選びました。

●エレクトーンミュージック・ボックス

ポピュラーミュージックのジャンル別曲集シリーズです。上級者のレパートリー集としてご利用ください。

●エレクトーンジャズタイム

プレイヤー、アレンジ者の個性を生かした新しいタイプのジャズシリーズです。

●エレクトーンニューラブソングス

映画音楽、スタンダードナンバー、ニューミュージック、ポップスなどから愛をテーマにした曲を選びました。

●エレクトーン5セレクションズ

トップアレンジヤーや人気プレイヤーが自由に腕をふるってアレンジしたハイセンスな曲集です。

●エレクトーンポップスコア

ポップ感覚あふれるナンバーを、若手プレイヤー、アレンジヤーが個性豊かにアレンジした曲集です。

●エレクトーンクラシック・シリーズ

楽聖といわれた人たちの名曲から親しみやすいセミクラシックナンバーまで、バリエーションに富んだ選曲です。

●エレクトーンヒット50

ポケットサイズで1冊に50曲。メロディー譜にリズムパターン、ディスクメモをつけた曲集です。

●エレクトーンパーソナル・シリーズ

第一線で活躍するエレクトーンプレイヤーの魅力的な作品を集めた曲集です。

●エレクトーンブレイキングノート

エレクトーンプレイヤーが日頃ステージで演奏しているレパートリーを演奏しやすいようにアレンジしました。

●エレクトーンファンファンファン

若手アレンジヤーがポップな感覚でエレクトーンの新しいイメージにチャレンジ。中級者向けの楽しい曲集です。

●エレクトーンサウンド・クリップ

エレクトーンの機能を生かしたポピュラーミュージックのジャンル別曲集です。

●エレクトーンアーティスト・ベストコレクション

ポピュラーミュージック界のビッグアーティストをクローズアップし、その代表曲を紹介する曲集です。

●エレクトーンABCシリーズ

シングルフィンガープレイを中心に編集された曲集で、初心者でも手軽にエレクトーンプレイが楽しめます。

●エレクトーンABC for Fシリーズ

FS・FE型エレクトーン用のレジストチャートを掲載し、オートベースコードなどの機能をフルに生かした曲集です。

●レッツプレイエレクトーン

エレクトーンを始めたばかりの方に、弾く楽しさを早く知っていただくための、やさしくアレンジされた曲集です。

●エレクトーンレパートリー

グレードにあわせて、ポピュラーな曲、親しみのあるメロディーを中心に選曲しました。

●エレクトーンニューミュージック・コレクション

人気の高いニューミュージックアーティストの代表曲を集めた曲集です。

●エレクトーンアレンジ・コレクション

ソロ演奏、弾きうたい、アンサンブル等いろいろな楽しみ方ができる歌謡曲とニューミュージックのシリーズです。

●エレクトーン・アルバム

ジャンル別に編集されたエレクトーン曲集。スタディオ

ス、マスターコースの副教材としてもご利用ください。

●エレクトーンメロディー・バレット

ニューミュージック、歌謡曲のヒットソングを集めた初心者向けのシンプルな隔月刊曲集です。

●エレクトーンメロディー・バレットスペシャル

人気歌手のヒットソングを弾きやすいようにアレンジした歌謡曲集です。

●エレクトーン名曲アルバム

クラシックの名曲を各グレード別にアレンジ編集した曲集です。

●エレクトーンアペニョー

FX・FS型エレクトーン用に編曲、構成された曲集です。

●こどものエレクトーンメイト・フォリオ

演奏技術を数多く実践するための曲集です。

●エレクトーンメイト・フォリオ

初心者向けレパートリー曲集です。

●こどものエレクトーン・レパートリー

こどもの親しみやすいポップな曲を中心に選曲し、編曲したグレード範例曲集です。

●エレクトーンリトルミュージシャン

楽しく親しみやすいこども用曲集で、マスターしてはいいテクニック等を考慮して編曲しています。

●エレクトーンラブラリー・コレクション

こども、またはエレクトーン初級者を対象としたジャンル別の曲集です。

●よい子のエレクトーン

エレクトーン演奏をはじめとして、音楽の基礎知識を身につけるための子ども用学習書です。

●エレクトーンで弾く作曲家シリーズ

クラシックの名曲を作曲家別にまとめた曲集です。

MIDIの楽しみ方

エレクトーンMEシリーズには、先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができるMIDI端子がついています。MIDIとは、電子楽器どうしの間で各種の情報のやりとりができるようにした世界統一規格。他のキーボードやリズムマシンと接続して、ひとりでアンサンブルを楽しんだり、パソコンと接続して演奏情報をやりとりするなど、いろいろな使い方ができます。

送／受信できる情報

●演奏情報の送／受信(オムニ・オフ、ポリモード)

上鍵盤：1チャンネル

下鍵盤：2チャンネル

ペダル鍵盤：3チャンネル

●レジストレーションメモリー、レジストレーションメニュー(ME-55/ME-35のみ)の切り替え情報の送／受信

●MIDIクロックの送信(内部同期モード時)

●リズムスタート／ストップの送／受信

●フィルイン(ME-55/ME-35のみ)、イントロ／エンディング(ME-55/ME-35のみ)、フットスイッチ(ME-55のみ)の送／受信(エクスクルーシブメッセージ)

F0H、43H、70H、70H、40H、*nnH、**xxH、F7H

*フィルイン：48H、イントロ／エンディング：4BH、

フットスイッチ：45H、

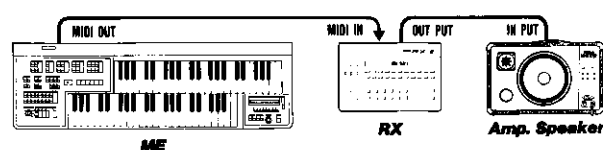
**ON：7FH、OFF：00H

使用例

①ME→RX(リズムマシン)

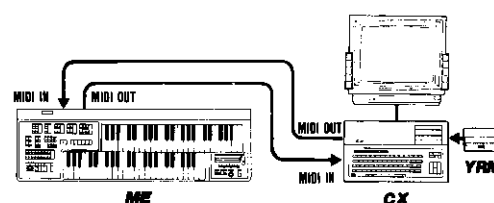
エレクトーンMEシリーズのリズムは、AWM音源の採用により、とてもリアルな打楽器音が得られますが、もし自分でつくったリズムパターンを使って演奏したい場合は、下の図のようにデジタルリズムプログラマーRXシリーズを接続してみましょう。(アンプ／スピーカーの代わりにエレクトーンのEXP.IN端子に接続すればRXの音をエレクトーンから出すことができます。)

エレクトーンでリズムをスタートさせれば、RXのリズムもスタートし、ストップさせれば、RXのリズムもストップします。また、RXのリズムのテンポは、エレクトーンでセットしているテンポに同期します。(RXは外部同期モードにしてください。)



③ME⇄CX(MSXパソコン)

FMサウンドシンセサイザーユニットを装着したMSXパソコンと接続すれば、シンセサイザーユニットを外部音源として使えるほか、ソフトウェアパッケージ(YRM)の活用によっていろいろな楽しみ方ができます。例えば、FMミュージックコンポーザーを使って音符をパソコンに入力し、それをエレクトーンに送信すれば、自動演奏が可能です。また、MIDIレコーダーを使えば、エレクトーンの演奏をデジタル録音することができます。



リズム同期モードの切り替え

以下の操作を行えば、外部同期モードとなり、MIDIクロックを受信できるようになります。ただし、通常の使用では、この操作を行う必要はありません。

●ME-55/ME-35：いったん電源をOFFにし、マルチメニューの左から3番目のボタンをおさながら、電源をONにする。(マルチメニューのパネルは、カセットの面以外であればどの面がでていてもかまいません。)

●ME-15：いったん電源をOFFにし、シンクロススタートのスイッチをおさながら、電源をONにする。

Electone ME-55/ME-35/ME-15

MIDIインプリメンテーションチャート

Date:1986.10.01

Version:1.0

フアクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル ×	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル ×	上鍵盤(プリセット) 下鍵盤(プリセット) ペダル鍵盤(プリセット) コントロール(プリセット)
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	53—96 41—84 36—48 *****	36—96 36—96 36—96 36—96	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 上/下/ペダル鍵盤
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	× 9nH, v=64 × 9nH, v=0	× 9nH, v=1—127 × 9nH, v=0, 8nH	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ		×	×	
プログラムチェンジ	設定可能範囲	0—4, 32—47 *****	0—4, 32—47 0—4, 32—47	0—4 =レジストレーションメモリー 32—47=レジストレーションメニュー*
エクスクルーシブ		○	○	フィルイン ** イントロ/エンディング ** フットスイッチ ***
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	**** (FAH, FCH)
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ○	*****
備考	* ME-55/ME-35のみ。 ** ME-55/ME-35のみ。 *** ME-55のみ。 **** 受信は外部同期モード時のみ。 ***** 16チャンネルで受信。			

モード1: オムニ・オン, ポリ

モード3: オムニ・オフ, ポリ

モード2: オムニ・オン, モノ

モード4: オムニ・オフ, モノ

○: あり

×: なし

故障だとお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリツとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えろという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすることは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所や状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそえた音楽が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、リードボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびリードボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。(4・6ページ参照)
上鍵盤または下鍵盤を同時に8音おさえても7音しかでない。	上鍵盤または下鍵盤では、最大7音まで同時に発音するようになっています。また、オートベースコードを使っている時は、上鍵盤の発音数が最大6音、下鍵盤の発音数が最大4音になります。(4・5ページ参照)
基本レジストレーションをレジストレーションメモリーに呼び出すことができない。	電源スイッチを入れたあと、すぐにメモリーボタンをはなしているためです。メモリーボタンをおさえながら電源を入れ、そのあと約1〜2秒はメモリーボタンをおしつけてください。
パネルのサステインまたはユーザービブラートをONにしても効果がかからない。 (ME-55/ME-35)	ME-55/ME-35では、サステインとユーザービブラートのかかり具合を、マルチメニューでセットするようになっています。マルチメニューでのセットが0になっている場合には、効果がわかりません。(8・26・27ページ参照)
ボリュームをセットしてもアルペジオコード(ME-55/ME-35)、リズムック(ME-15)の音がでない。	リズムをスタートさせていないためです。アルペジオコード、リズムックは、リズムに連動して機能するようになっていますから、必ずオートリズムと一緒に使ってください。(14ページ参照)
シングルフィンガーで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブの中の音かであるようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音がでてきます。(15ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤を同時に弾いても、メロディーオンコードによるハーモニーの音がでない。	ハーモニーの音色がセットされていないためです。上鍵盤オーケストラルボイス音色を選び、音量をセットしてください。また、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、ハーモニーの音がでない場合があります。(18ページ参照)

現 象	原 因 と 処 置
レジストレーションメモリーに記憶できない機能がある。	オートリズムのスタート、シンクロススタート、フィルイン、イントロ/エンディングの各スイッチ、マルチメニューのトランスポジションなどの機能は記憶しないようになっています。(19ページ参照)
新品のRAMパックを差しこむとエラーのランプが点滅する。	未使用のRAMパックをエレクトーンに差しこんだ場合はエラーのランプが数回点滅します。そのまま、コンファームのボタンをおしてトゥーパックの操作を行ってください。(21ページ参照)
トゥーパックの操作をすると、エラーのランプが点滅する。	パックの差しこみ方、操作方法を再度確認して操作をやり直してください。また、RAMパックのメモリープロテクトのスイッチがONになっていると、トゥーパックの操作をしても情報は移りません。(21ページ参照)
グレーのボタンを選んだら、表示されている音色とはちがう音色がでてる。	ボイスメニューの音色が移されているためです。メニューボタンをOFFにするか(ME-55/ME-35)、オリジナルボイスのボタンを使って、ボイスメニューの音色をコントロールパネルに表示されている音色にもどしてください。(23・24ページ参照)
ボイスメニューの音色がグレーのボタンに移らない。	ME-55/ME-35では、メニューオンのボタンがONになっていること、操作手順を再度確認して操作をやり直してください。ME-15では、最初にグレーのボタンのボタンをおさえ、そのままボイスメニューをおしてください。(23・24ページ参照)
サステインまたはユーザービブラートのかかり具合をセットしても、セットしたとおりに効果がかけられない。(ME-55/ME-35)	操作手順を再度確認してください。効果のかかり具合をセットする時、パネルのサステインまたはユーザービブラートのボタンもONにする必要があります。(26・27ページ参照)
C.S.P.のエディット/クリアーボタンをおしても、レコードまたはエディットの操作に入れない。(ME-55/ME-35)	ソングボタンがONになっているためです。ソングボタンをOFFにしてから、レコードまたはエディットの操作に入ってください。(28ページ参照)
レジストレーションメモリーに記憶させたのに、C.S.P.にはプログラムされない機能がある。(ME-55/ME-35)	リズムのテンポ、オートベースコードのセットは、レジストレーションメモリーには記憶されますが、C.S.P.には記憶されないようになっています。(28ページ参照)
C.S.P.でコードやフィルイン、イントロ/エンディングがプログラムされない。(ME-55/ME-35)	コードをプログラムする時は、下鍵盤をおさえながら拍長ボタンをおしてください。また、フィルイン、イントロ/エンディングをプログラムする時は、それぞれのスイッチをおさえながらレジストレーションボタンをおしてください。なお、イントロをプログラムした時は、そのあとコードなしの小節を1小節プログラムし、エンディングをプログラムした時は、そのあと2小節のコードをプログラムしてください。(28・29ページ参照)
C.S.P.のプログラムをしているとき、信号音が3回鳴る。(ME-55/ME-35)	プログラム容量いっぱいまでプログラムしたときは、信号音が3回鳴って、それ以上プログラムできないことを示します。(29ページ参照)
C.S.P.を再生させた時、伴奏の音が出てこない。(ME-55/ME-35)	コードキャンセルがONになっているためです。伴奏の音を再生させたい時は、コードキャンセルをOFFにしてください。(30ページ参照)
C.S.P.を再生させたら、それまで記憶させていたレジストレーションメモリーの内容が変わってしまった。(ME-55/ME-35)	C.S.P.を再生するためにソングボタンをONにすると、プログラムした時点のレジストレーションメモリーの情報が再現され、その時レジストレーションメモリーに記憶されている情報と入れ替わります。レジストレーションメモリーの情報を消したくない場合は、RAMパックまたはカセットテープに情報を移してください。(30ページ参照)
C.S.P.のエディットで情報を追加しているとき、追加したい位置より前に入ってしまう。(ME-55/ME-35)	フィルイン、イントロ/エンディングの情報、またはレジストレーションメモリーを切り替える情報を追加する場合は、データポインタを追加したい位置の次の情報に移動して、プログラムの操作をしてください。(31ページ参照)
フロムカセットの操作をしても、情報がエレクトーンに移らない。(ME-55/ME-35)	コードの接続、操作方法、レコーダーの再生レベル、使用しているカセットテープやレコーダーなどをチェックして、操作をやり直してください。どうしてもエラーになってしまう場合は、レコーダーをはかのものにかえてください。(33ページ参照)
コントロールパネルなどが正常に働かない。または、メモリーしていた情報がかわってしまう。	非常にまれなことですが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報がかわったりすることがあります。このような場合には、いったん電源スイッチを切り、マルチメニューの一番左端のボタン(カセットの面を除く)をおしながら、電源スイッチを入れてください。(ME-55/ME-35のみ)

アフターサービスと保証

保証

エレクトーンの保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満10年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項を記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。

ヤマハエレクトーン 保証書 MODEL ME-15, ME-35, ME-55

お買上げ日 年 月 日

保証期間 年 月 日

販売店名

(所在地)

(電話番号)

ヤマハ株式会社エレクトーン営業部

〒100 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112

保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う10年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種の判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預った保証書は、弊社電音サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申しあげます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社電音サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満10年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(40～41ページの「故障だと思える前に」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音がでる●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音がでるなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。

症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちなお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔修理受付および修理品お預り窓口〕

東京電音サービスセンター

☎(044)434-3100
〒211 川崎市中原区木月1184

新潟電音サービスステーション

☎(025)243-4321
〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

松本電音サービスステーション

☎(0263)32-5930
〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F

大阪電音サービスセンター

☎(06)877-5262
〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878)22-3045
〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内

名古屋電音サービスセンター

☎(052)652-2230
〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター

九州電音サービスセンター

☎(092)472-2134
〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスセンター

☎(011)513-5036
〒065 札幌市中央区南10条西1丁目

仙台電音サービスセンター

☎(022)236-0249
〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

広島電音サービスセンター

☎(082)874-3787
〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

浜松電音サービスセンター

☎(0534)65-6711
〒435 浜松市上西町911 (ヤマハ宮竹工場内)

〔本 社〕

電音サービス部

☎(0534)65-1158
〒435 浜松市上西町911

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

まめちしき エレクトーン豆知識 ()内は、本書で説明しているページ数です。

ア ●アップパー

「上」という意味です。エレクトーンではおもに上鍵盤関係のことをさします。

●アルペジオコード (14ページ)

下鍵盤をおさえつつけるだけで、リズムに連動したコード伴奏やアルペジオ(分散和音)伴奏が自動的にでてくる機能です。

●イントロ (12ページ)

前奏のことですが、エレクトーンでは、イントロ/エンディングスイッチを入れて、リズムをスタートさせれば、1小節のリズムのイントロが自動的に得られます。

●イントロカウント (30ページ)

C.S.P.を再生させる時、このボタンを入れておくと、再生がスタートするまでに1小節のイントロカウント(メトロノームの音)が得られます。

●ウッド (4・5ページ)

木管楽器のことで、オーケストラルボイスの音色として用意されています。

●8ビート (10ページ)

ロックの基本的なリズムで、2種類のパターンがリズムパターンとして用意されています。

●エキストラパーカッション (13ページ)

選んだリズムパターンに、打楽器音を追加する機能です。

●EXP. IN 端子 (34ページ)

シンセサイザーやリズムマシンなどを接続する端子です。

●エクスプレッションペダル (3ページ)

演奏しながら音量をコントロールし、音に強弱の表情をつけるペダルです。

●AWM 音源方式

実際の楽器の波形をデジタル録音によって収録し、メモリーした音源方式です。MEシリーズのリズム音は、AWM音源方式を採用しています。

●エディット (31ページ)

「編集する」という意味で、C.S.P.のエディットボタンを入れると、プログラムした情報の確認と訂正ができるようになります。

●エディット/クリアー (28・31ページ)

C.S.P.に伴奏をプログラムする時、またはプログラムした情報をエディットする時におします。

●ABC (15ページ)

エレクトーンでは、オートベースコードの頭文字をとって、ABCと呼ぶことがあります。

●エフェクト (8・9ページ)

サステイン、ヒブラートなどの「効果」のことです。

●FM 音源方式

周波数変調によって複雑な倍音成分をとりだし、一瞬一瞬でデジタル演算処理をする音源方式です。MEシリーズの音色は、FM音源方式を採用しています。

●エラー (21ページ)

RAMバックを使っている時、正常に機能しなかった場合に約1秒間減します。

●エンディング (12ページ)

曲の終わりなどで、イントロ/エンディングスイッチをおせば、2小節のリズムのエンディングパターンが得られ、自動的にリズムはストップします。

●エンドボタン (→) (29ページ)

C.S.P.のプログラムで、一番最後に終止記号をプログラムするときに使うボタンで、ト音記号ボタンをおしながらこのボタンをおします。

●AUX. OUT 端子 (34ページ)

外部スピーカーを使ったり、テープに録音する時などに接続する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラルボイス (4・5ページ)

上鍵盤と下鍵盤にある音色グループで、同時に7音まで発音します。

●オートベースコード (15ページ)

下鍵盤のコード伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏が自動的にでる機能です。

●オートリズム (10ページ)

さまざまな打楽器音で、自動的にリズムがきざまれる機能です。

●オリジナルボイス (23・25ページ)

グレーのボタンに移したボイスメニューの音色を部分的にキャンセルし、表示されているとおりの音色にもどしたい時に使います。

●音色 (おんしょく)

ねいろのことです。エレクトーンでは、いろいろな楽器の音をだすことができますが、これらを総称して音色と呼んでいます。

●音程

音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣りの音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音量

音の強さ、大きさのことで、エレクトーンではボリュームと表示されているボタンやつまみで音量をセットします。

カ ●カスタム A.B.C. (17ページ)

オートベースコードの使い方を選ぶボタンのひとつで、このボタンを入れると、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏がきりはなされます。

●カセット (33ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、エレクトーンに記憶させた情報をカセットテープに移すことができます。

●基本レジストレーション (7ページ)

電源を入れる時、レジストレーションメモリーのメモリーボタンをおすことで、5種類の基本的なレジストレーションが得られます。

●グライド (9ページ)

フットスイッチの操作で、リードボイスの音程を半音下げ、徐々にもとの音程にもどす効果です。

●グレーのボタン (23・24ページ)

パネルの各音色グループには、グレーのボタンがひとつずつあり、ボイスメニューの音色はこのボタンに移して使います。

●コズミック (24ページ)

さまざまなイメージサウンド (おもにシンセサイザーがよく使う音) が得られる音色で、ボイスメニューの音色などに用意されています。

●コードキャンセル (30ページ)

C.S.P.を再生させるとき、このボタンを入れておくと、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏の再生をキャンセルすることができます。(フィルインやレジストレーションはプログラムしたとおりに再現されます。)

●コードシーケンスプログラマー (28ページ)

2曲分の伴奏をあらかじめプログラムしておくことができる機能です。フィルインやレジストレーションメモリーの切り替えも一緒にプログラムすることができます。

●コードネーム (16ページ)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音です。

●コーラス (9ページ)

トレモロとシンフォニックのボタンを両方とも切っている時に得られます。

●根音 (16ページ)

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。

●コンビネーション (4・5ページ)

「組みあわせ」という意味で、エレクトーンでは、いろいろな音を組みあわせてつくったオルガン音色のことをいいます。

●コンファーム (21ページ)

「確認する」という意味で、RAMバックを使用する時に、トワークバックまたはフロムバックのボタンと一緒にお願いします。

サ ●サステイン (8・27ページ)

鍵盤から手や足をはずしたあと、音に余韻をつける効果です。ME-55/ME-35では、そのかかり具合をマルチニューでセットすることができます。

●C.S.P. (28ページ)

コードシーケンスプログラマーを略して表記し、C.S.P.のことで

●16ビート (10ページ)

16分音符を基本としたリズムパターンで、ロックやフュージョン、ジャズなどの音楽で使います。

●シングルフィンガー (15ページ)

オートベースコードの使い方を選ぶボタンのひとつで、このボタンを入れると、下鍵盤で和音の根音をおさえることでコードとベースの自動伴奏が得られます。

●シンクロスタート (11ページ)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。シンクロスタートを入れておくと、伴奏と同時にリズムをスタートさせることができます。

●シンセストリング・シンセプラス (24ページ)

ボイスメニューに用意されている音色で、シンセサイザーでつくった弦楽器の音色、金管楽器の音色です。

●シンフォニック (9ページ)

複数の楽器で合奏しているときのような、ひろがりのある響きにする効果です。

●スイング (10ページ)

ジャズの標準的なリズムパターンです。

●ストリングス (4・5ページ)

弦楽器のことで、オーケストラルボイスの音色に用意されています。

●セブンスコード (16ページ)

長三和音に短7度の音を加えた和音です。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の白鍵を同時におさえることで得られます。

●ソングボタン (28ページ)

C.S.P.には2つのソングボタンがあり、それぞれのボタンに伴奏をプログラムすることができます。伴奏をプログラムする時、再生させる時、またはエディットの操作を行う時におします。

タ ●チューバ (24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、行進曲などでよく使われる低音の金管楽器です。

●ディスコ (10ページ)

ディスコダンス用のリズムパターンで、シンプルなビートと強めのアクセントが特徴です。

●ディストーションギター (24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、ディストーション効果(歪み)のきいたエレクトリックギターです。

●ディレイ (26ページ)

「遅れ」という意味で、リードボイスのユーザービブラートでは、鍵盤をおさえてからビブラートがかかりはじめるまでの遅れ時間を、ディレイのボタンでセットすることができます。

●ディンパニ (24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、オーケストラでよく使われる大型の打楽器です。

●データポイント (31ページ)

C.S.P.にプログラムした情報の位置をしめす指針のことです。エディットの操作では、このデータポイントを[→]ボタンなどで移動させ、プログラムした情報を確認することができます。

●テンポ (11ページ)

速度のことで、オートリズムではリズムの速さをテンポのつまみでコントロールします。

●テンポランプ (11ページ)

リズムの速さを表示するランプで、リズムをスタートさせ、小節の1拍目に点滅します。

●トウカセット (13ページ)

エレクトーンの情報をカセットテープに移す時に使うボタンです。

●トウバック (21ページ)

エレクトーンの情報をRAMバックに移す時に使うボタンで、レジストレーションメモリーのメモリーボタンと共用です。

●ト音記号ボタン (28・31ページ)

C.S.P.でプログラムを開始する時や、終止記号[=H]をプログラムする時に使います。また、データポイントを一度に曲の先頭または最後に移動させたい時にも使います。

●トランスポジション (32ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、エレクトーン全体のキー(調子)を変えることができます。

●トレモロ (9ページ)

音をうねらせ、豊かなひろがりをもたせる効果です。

●ノーマル (32ページ)

「普通の」という意味で、トランスポジションでは、このボタンをおすことで、本来のキー(調子)にもどすことができます。

●バウンス (10ページ)

ジャズのリズムパターンのひとつで、ビッグバンドの曲などで使います。

●拍長ボタン (29ページ)

C.S.P.のプログラムで、データの長さを指定するボタンです。下鍵盤でコードをだしながら拍長ボタンをおすことで、コードがプログラムされます。

●ハーブシコード (23・24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、チェンバロとも呼ばれる16~18世紀ごろの鍵盤楽器です。

●バラード (10ページ)

スイングにアフタービートのかかったリズムパターンで、スローなポピュラーに適しています。

●パンフルート (24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、牧歌的な響きをもった素朴な管楽器です。

●ビブラート (8ページ)

音をふるわせ、うるおいをもたせる効果で、エレクトーンの音色には、それぞれの音色にふさわしいようにあらかじめビブラートが組みこまれています。

●フィルイン (12ページ)

メロディーなどを装飾する助奏のことをいいますが、オートリズムのフィルインスイッチをおせばリズムパターンを一時的に変化させるリズムフィルインが得られます。

●フィルインバリエーション (12ページ)

フィルインのパターンを変えるはたらきをするボタンです。

●フィンガードコード (17ページ)

オートベースコードの使い方を学ぶボタンのひとつで、このボタンを入れると、下鍵盤でコードをおさえることでコード伴奏とともにベース伴奏が自動的に得られます。

●フットスイッチ (9・13ページ)

エクспRESSIONペダルの左横にあるスイッチで、左におすことでリズムのストップなど、いろいろなコントロールができます。

●フットスイッチセクター (9・13ページ)

フットスイッチのはたらきを選ぶボタンで、リズムストップ、フィルイン、エンディング、およびグライドの4つの使い方が選べます。

●ブラス (4・5ページ)

金管楽器のことで、オーケストラボイスの音色として用意されています。

●フリーゲルホルン (24ページ)

ボイスメニューの音色のひとつで、トランペットの音をソフトにした響きが得られる金管楽器です。

●フロムカセット (33ページ)

カセットテープに移した情報をエレクトーンにもどす時に使うボタンです。

●フロムバック (21ページ)

RAMバックの情報をエレクトーンにもどす時に使います。

●ベースボイス (6ページ)

ペダル鍵盤の音色グループです。

●ペダル

エレクトーンでは、ペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ヘッドホン端子 (34ページ)

エレクトーンの前面にある付属端子で、ヘッドホンを接続して使います。

●ボイス

「声」という意味ですが、エレクトーンでは音色と同じような意味に使います。

●ボイスメニュー (23・24ページ)

各音色グループにあるグレーのボタンに、音色を移すことができる機能です。ME-55/ME-35では、マルチメニューにある22の音色、ME-15では、リズムパターンの下に表示されている7つの音色を移して使えます。

●マイナーコード (16ページ)

短調の和音のことで、Am、Dmというように表わします。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵を同時に押さえることで得られます。

●マイナーセブンスコード (16ページ)

短三和音に短7度の音を加えた和音です。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえることで得られます。

●マスターボリューム (3ページ)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マルチメニュー (22~33ページ)

ME-55/ME-35の下鍵盤の右にある回転パネルのことで、レジストレーションメニュー、ボイスメニューなどいろいろな機能を使うことができます。

●MIDI (ミディ)端子 (34・38ページ)

シンセサイザーやリズムマシン、パソコンなどと接続してデータ交信をしたい時に使う端子です。送信するときには(MIDI OUT)、受信するときには(MIDI IN)に接続します。

●メジャーコード (16ページ)

長調の和音のことで、C、Fというように表わします。オートベースコードのシングルフィンガーでは、和音の根音をひとつおさえるだけで得られます。

●メニューオン (24・25ページ)

ボイスメニュー機能のスイッチの役割をするボタンで、このボタンを入れている時は、グレーのボタンに移したボイスメニューの音色が得られ(グレーのボタンに音色を移す時にも入れます)、このボタンを切っている時は、グレーのボタンに表示されているパネルの音色が得られます。

●メモリー (7・16・19ページ)

レジストレーションメモリーの[M.]ボタンは、パネルのレジストレーションを記憶させる時や、基本レジストレーションを呼び出す時に使います。オートベースコードのメモリーボタンは、下鍵盤(またはペダル鍵盤)から手や足をはずしたあと、リズムと一緒に伴奏の音を鳴らしつづけた時に使います。

●メロディーオンコード (18ページ)

上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的に重ねることができる機能です。

●ユーザービブラート (8・26ページ)

自分でセットしたビブラートをかけることができる機能です。ビブラートのかかり具合は、マルチメニューのパネルでセットします。

●RAM(ラム)バック (21ページ)

エレクトーンに記憶させた情報を、メモリーすることができるLSI内蔵のバックです。メモリーした情報はいつでもエレクトーンにもどすことができます。

●リズムック (14ページ)

下鍵盤オーケストラボイスの音色を、リズムに連動してきまされる音色に切り替えるはたらきをするボタンです。(ME-15)

●リードボイス (4ページ)

いろいろな楽器音が単音で得られる音色グループで、上鍵盤から発音させることができます。

●リピート (30ページ)

「くり返し」のことで、このボタンを入れておくと、C.S.P.がくり返し再生されます。

●レジストレーション

曲想にあったサウンドをつくりだすために行った、音色、効果、リズムなどのセッティングのことをいいます。

●レジストレーションボタン [REGIST.] (28ページ)

C.S.P.にフィルイン、イントロ/エンディングや、レジストレーションメモリーの情報をプログラムする時に使うボタンです。

●レジストレーションメニュー (22ページ)

マルチメニューの機能のひとつで、16種類のレジストレーションがあらかじめ記憶されていて、ボタンひとつで呼び出すことができます。

●レジストレーションメモリー (7・19ページ)

パネルでセットしたレジストレーションを記憶させることができる機能です。また、基本レジストレーションを呼び出すこともできます。

●レディ (21ページ)

RAMバックを使っている時、コンファームのボタンを押すと点灯し、情報が正常に移った時は点滅します。

●ロワー

「下」という意味です。エレクトーンではおもに下鍵盤関係のことをさします。

ヤマハ株式会社

エレクトーン事業部/〒430 浜松市中沢町10-1

TEL. 0534(60)2191

東京事業所/〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル

TEL. 03(572)3140

大阪事業所/〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋ブラザビル東館

TEL. 06(252)7541

名古屋事業所/〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL. 052(201)5140

九州営業所/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL. 092(472)2152

北海道営業所/〒064 札幌市中央区南十条西1-1/ヤマハセンター

TEL. 011(512)6114

仙台営業所/〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル

TEL. 022(222)6141

広島営業所/〒730 広島市中区紙屋町1-18

TEL. 082(244)3748

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA

YAMAHA feelin' club



T4960693003022